

アンケート調査結果報告書

調査の概要

- ① 調査期間 令和7年11月7日～令和7年12月5日
- ② 調査対象 令和7年10月1日現在の18歳以上の2,000人
- ③ 調査方法 無記名式の調査票を郵送により配布、回収
- ④ 回答状況 1,167件（郵送回答：1,069件、Web回答：98件）
※前回 1,000人対象調査に557件回答
（郵送回答531件、Web回答23件、HP回答3件※配布以外）

区分	配布数（前回）	回答数（前回）	回答率（前回）
全 体	2,000（1,000）	1,167（557）	58.4%（55.4）
村上地区	892（437）	531（240+2）	59.5%（55.4）
荒川地区	350（168）	197（84+1）	56.3%（50.6）
神林地区	283（145）	165（82）	58.3%（56.6）
朝日地区	297（155）	151（91）	50.8%（58.7）
山北地区	178（95）	103（49）	57.9%（51.6）

※地区不明20

集計・分析にあたっての留意点

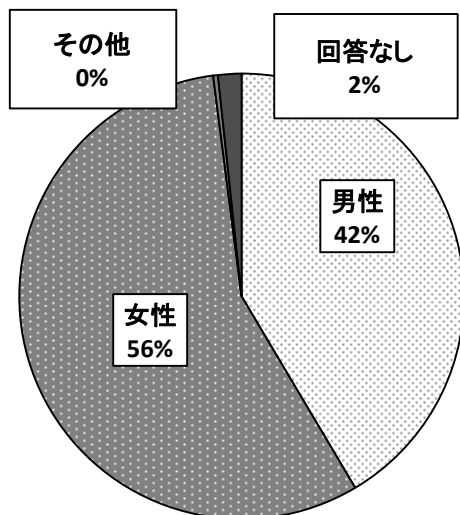
今回 R7 調査は 2,000 人を対象に実施し、前回 R3 調査は 1,000 人を対象に実施しています。

そのため、本資料のうち人数・件数で表示している設問については、前回 R3 調査の回答数を2倍し、今回 R7 調査と同じ「2,000 人配布相当」の換算値として表示しています。

また、割合で表示している設問については、各調査の回答者数を基に算出しています。

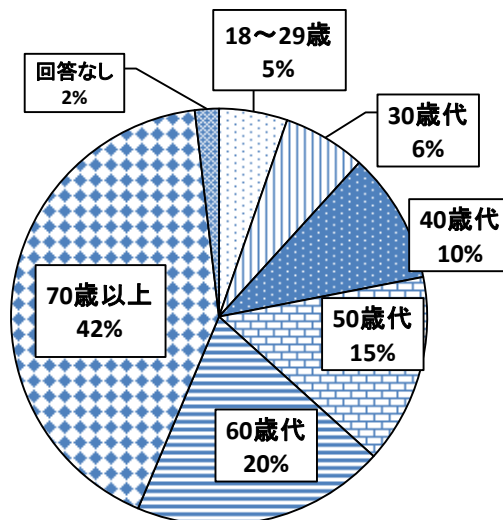
全 体

問1 あなたの性別は



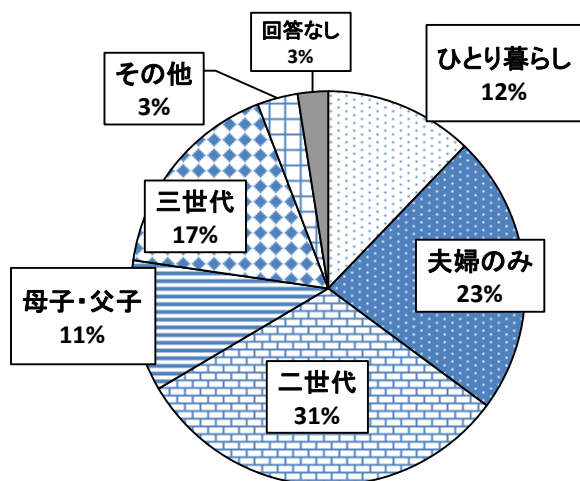
前回 男性…44%、女性…54%
無回答…2%

問2 あなたの年齢は



前回 20歳代…5%、30歳代…9%
40歳代…12%、50歳代…14%
60歳代…20%、70歳以上…38%
無回答…2%

問3 家族構成について

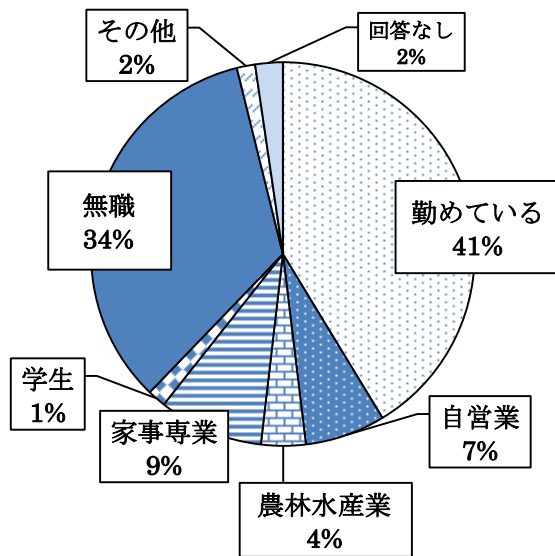


【その他】

- ・兄弟や姉妹
- ・おば
- ・孫
- ・施設入所
- ・パートナー
- ・四世代
- ・甥
- ・夫婦と孫
- など

前回 ひとり暮らし…13%
夫婦のみ…23%、二世代…29%
母子・父子…8%、三世代…19%
その他…7% 無回答…1%

問4 あなたの職業は
(兼業の場合は主なもの)

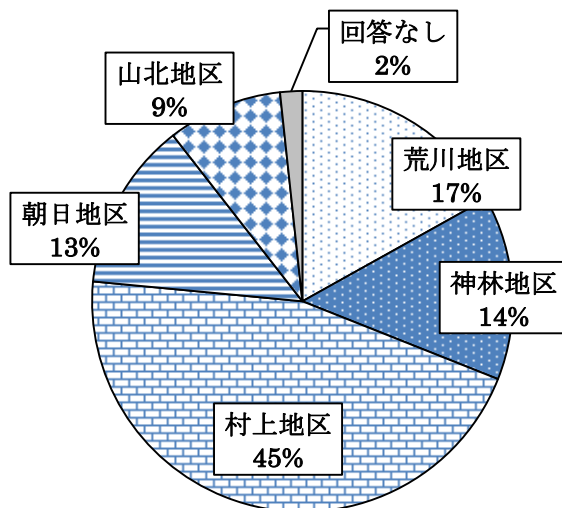


【その他】

- 就労B事業所
 - 病気
 - 畑と家事
 - シルバー人材
 - 介護
- など

前回 勤めている…43%、自営業…6%
農林水産業…4%、家事専業…10%
学生…1%、無職…30%
その他…4% 無回答…2%

問5 お住いの地区は

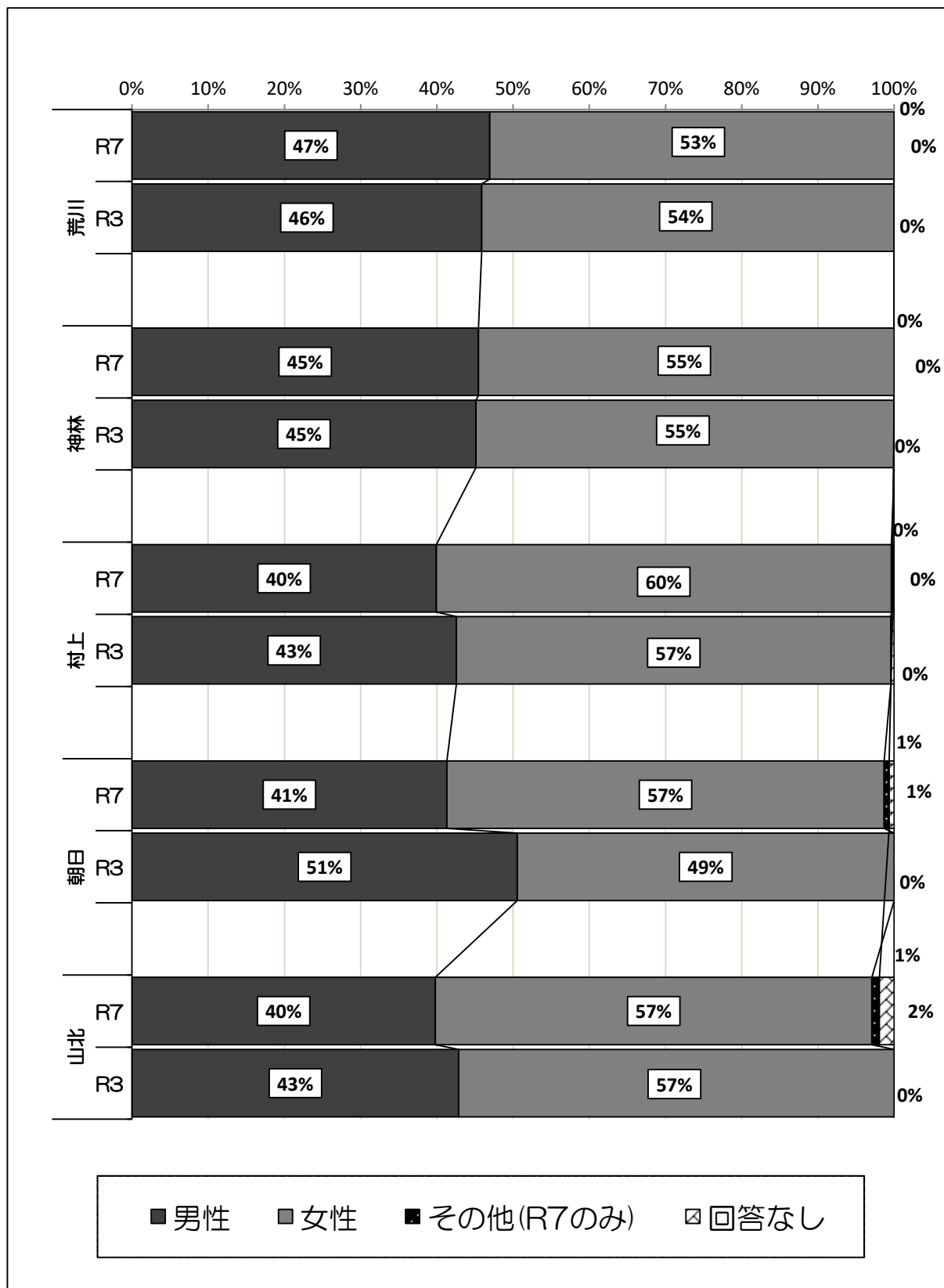


前回

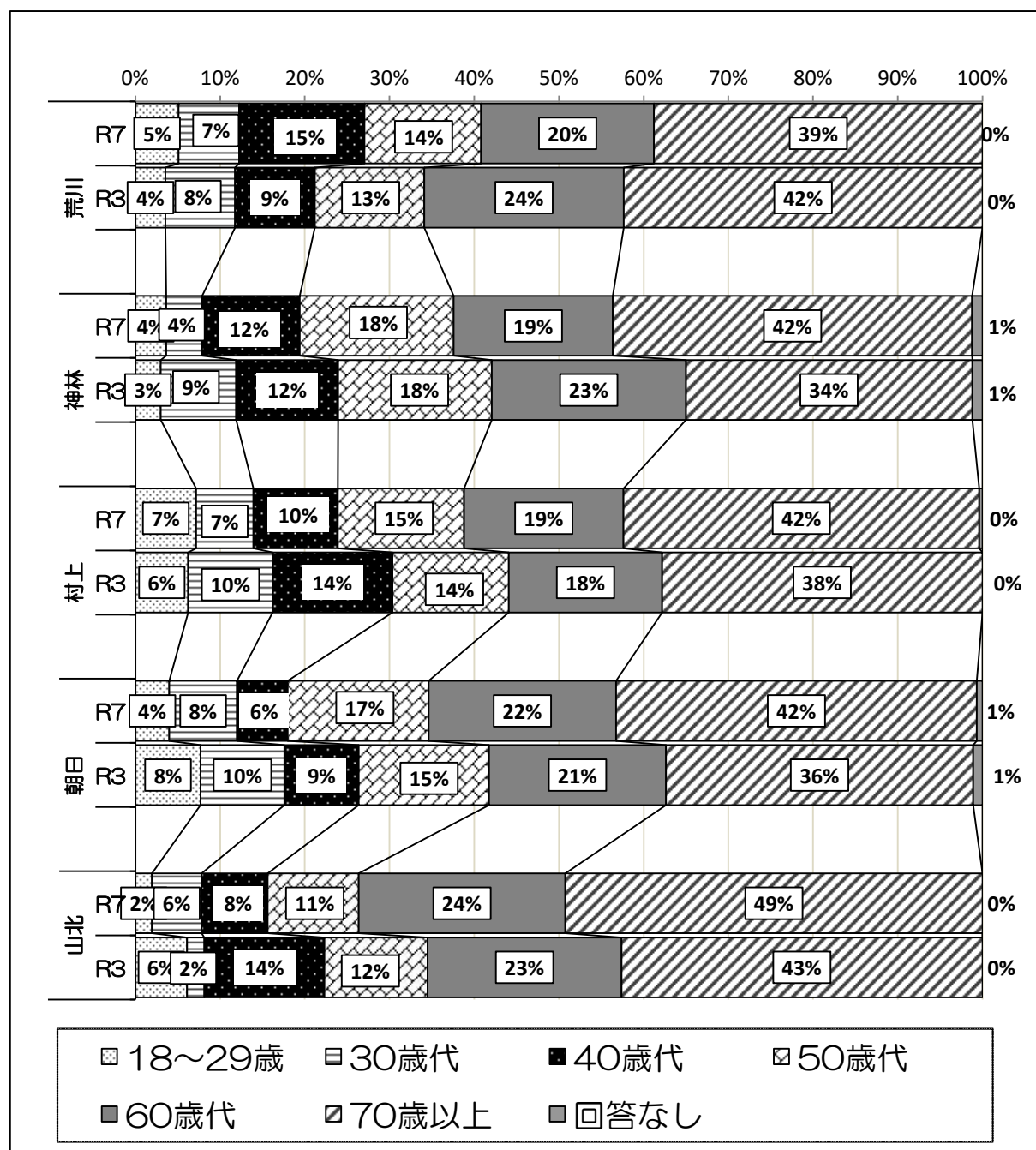
荒川地区…15%、神林地区…15%
村上地区…44%、朝日地区…16%
山北地区…9%、無回答…1%

地 区 別

問1 あなたの性別は



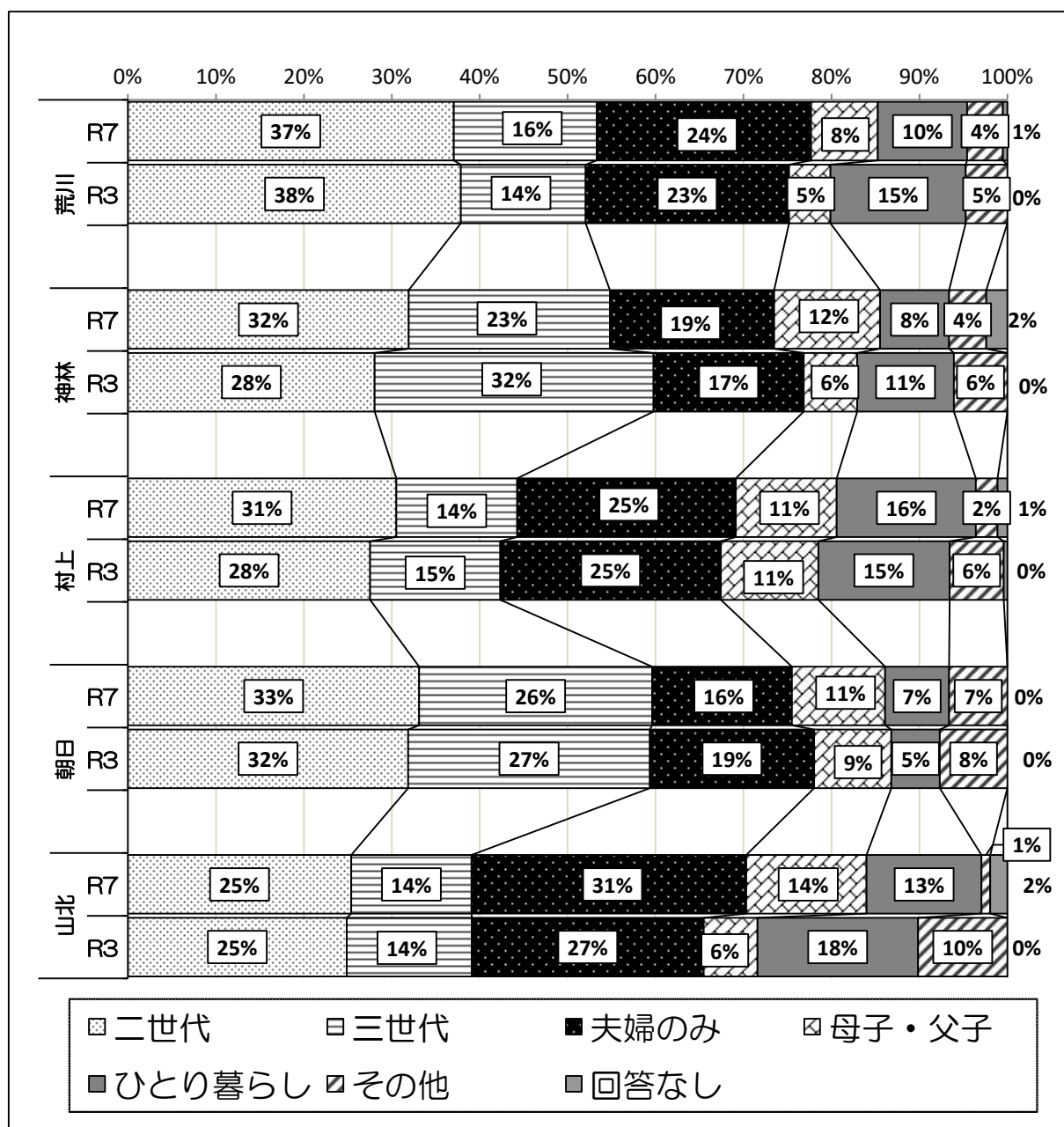
問2 あなたの年齢は



【前回調査との比較】

- 山北の 30 歳代が大幅に増え、神林は半減。その他地区は減少傾向
- 朝日、山北の若年者が大幅減

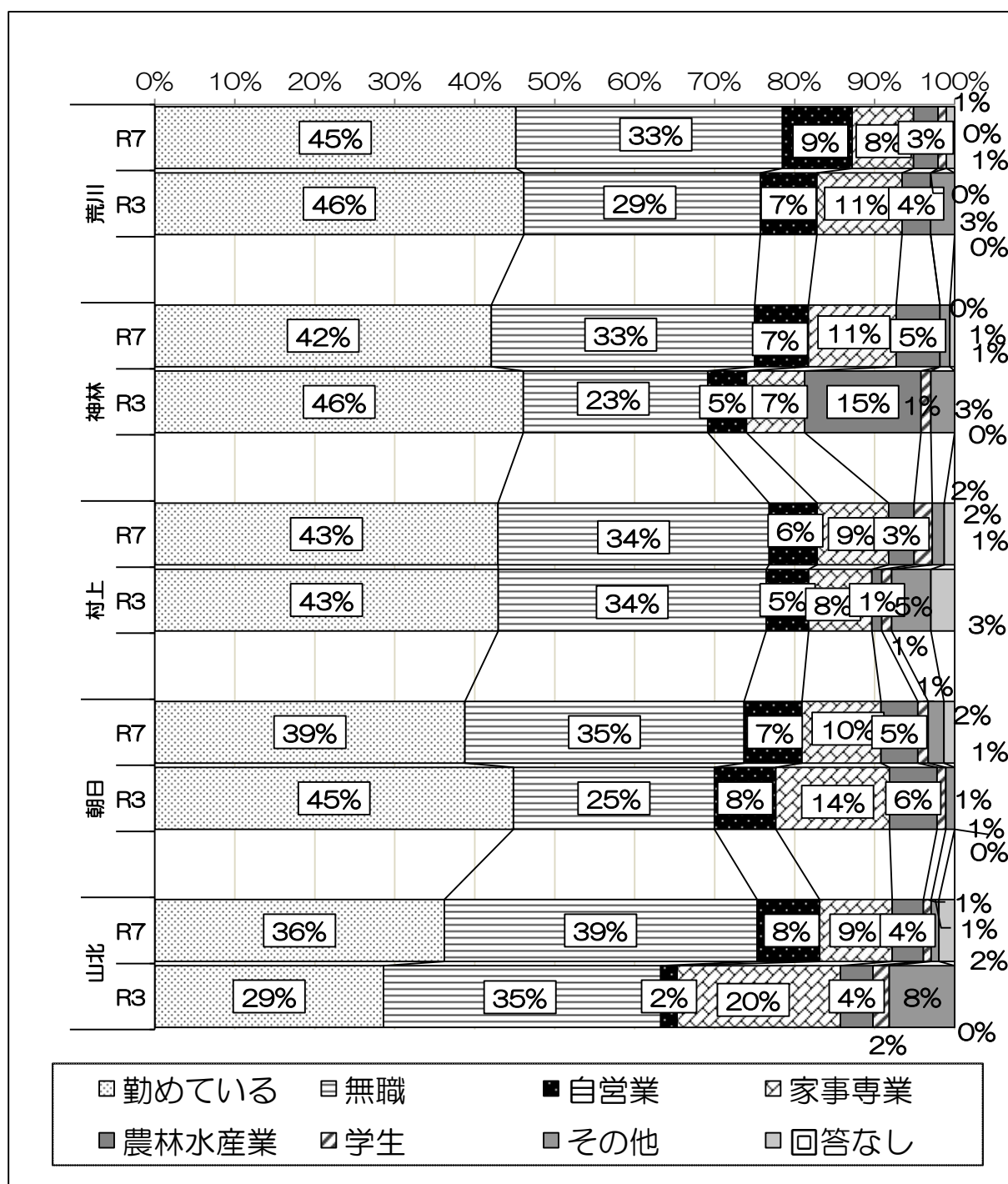
問3 家族構成について



【前回調査との比較】

- ・神林の三世代が減少
- ・神林、山北の母子父子は倍以上
- ・ひとり暮らしの割合は減っている
- ・山北だけ夫婦のみ世帯が1位
- ・村上とは他地域と比べると三世代世帯の割合が少なく、代わりにひとり暮らしが多い
- ・村上是二世代と夫婦のみで半数を占め、残りは同じくらいの割合
- ・世帯構成の多様化が進んでおり、従来の三世代同居を前提とした支え合いだけでは対応しにくい状況がうかがえます。

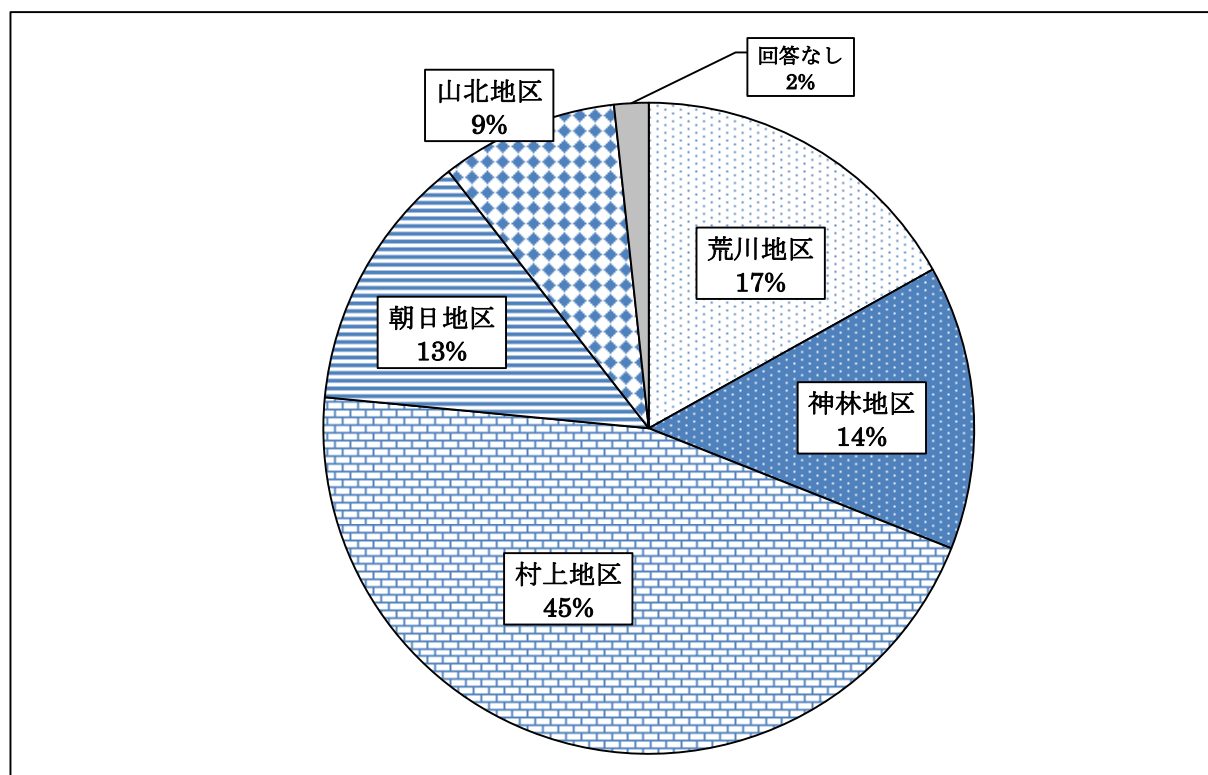
問4 あなたの職業は（兼業の場合は主なもの）



【前回調査との比較】

- ・神林の農林水産業従事者が大きく減り、無職が増加した。また、朝日も無職が増加している。⇒高齢により引退した？
- ・山北の家事専業が大きく減少し、勤めている人と自営業が増加⇒共働きの増加？

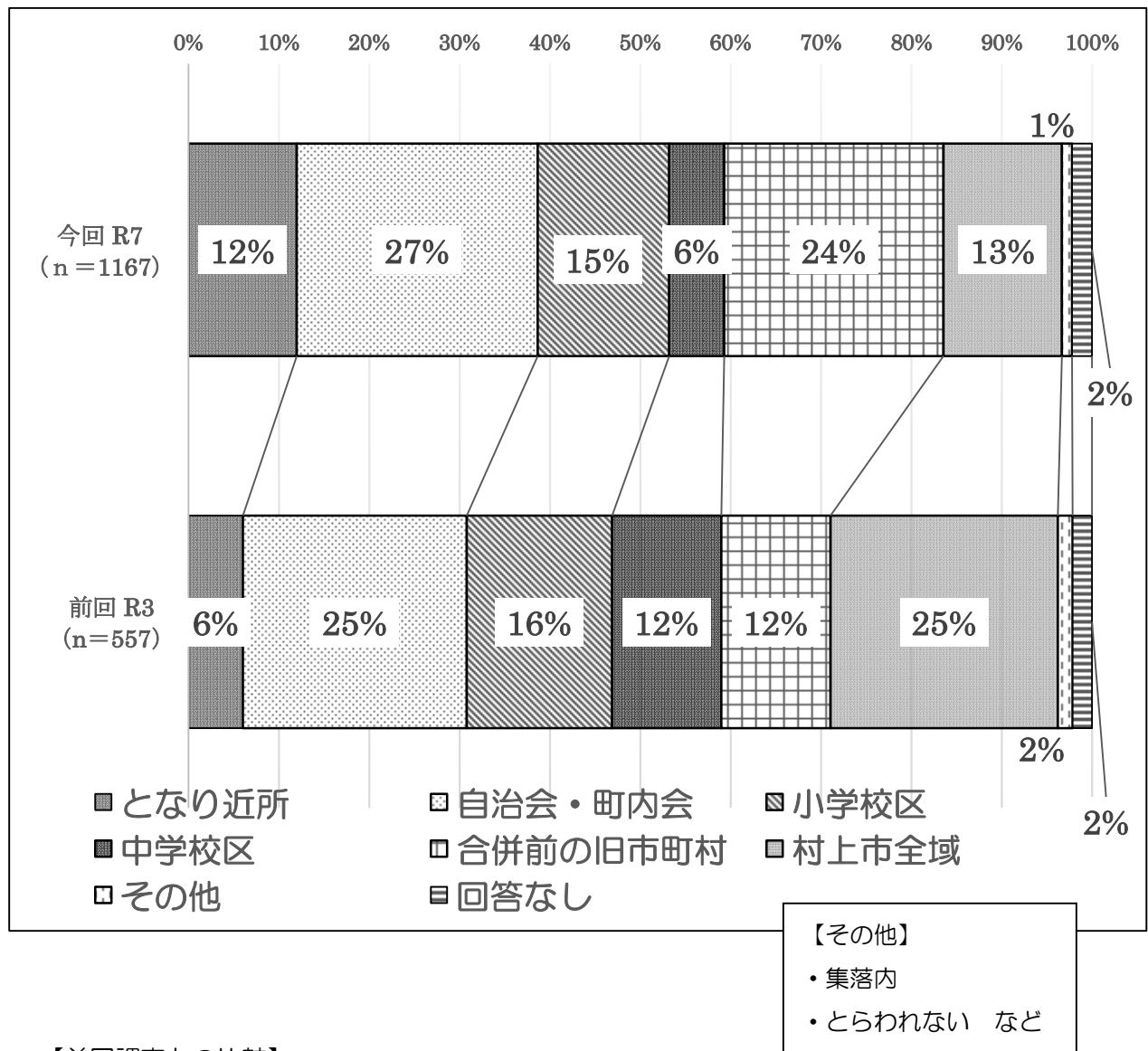
問 5 お住いの地域は



前回 荒川地区…15%、神林地区…13%
村上地区…44%、朝日地区…16%
山北地区…9%、無回答…1%

お住まいの地域について

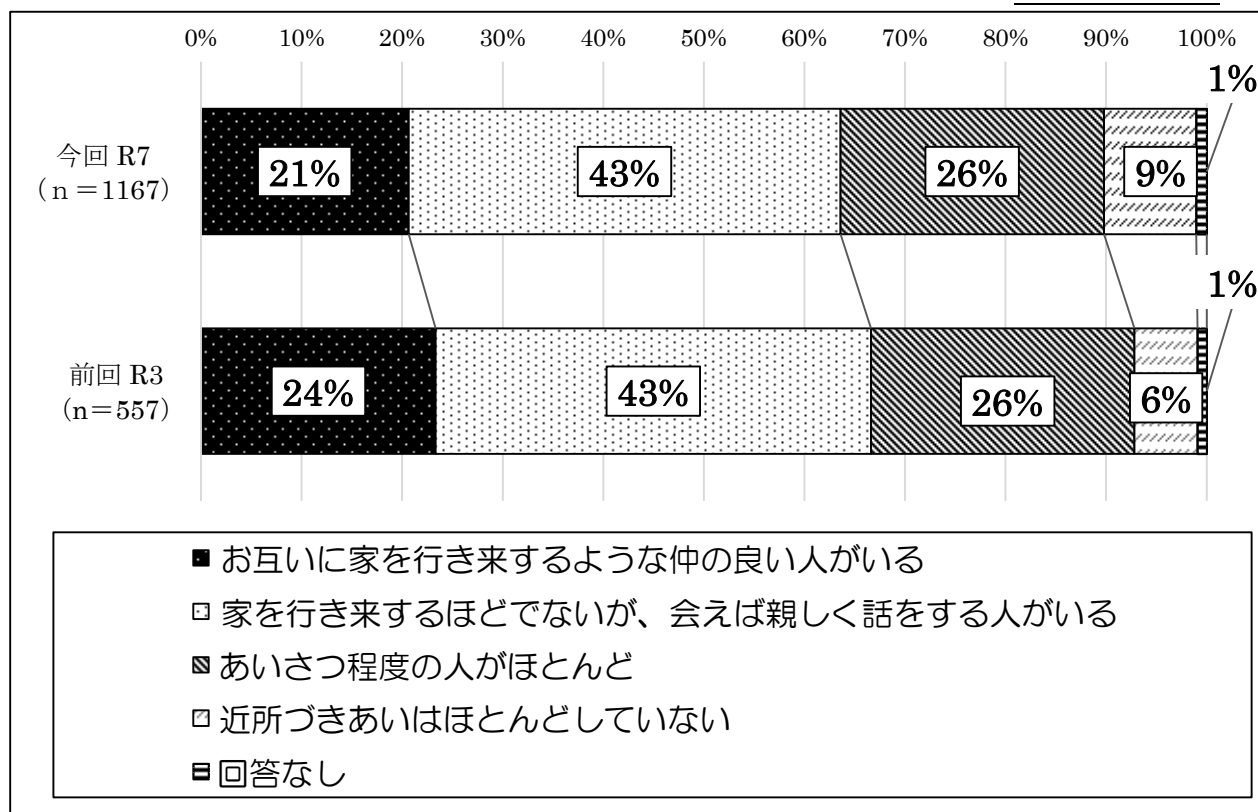
問6 あなたにとって「地域」と感じるのはどのくらいの範囲ですか (1つに○)



【前回調査との比較】

・「となり近所」「合併前の旧市町村」が増加し、「中学校区」「村上市全域」は、大きく減少しました。地域の捉え方が、広域的な範囲よりも、日常生活に近い範囲へ移る傾向がみられます。

問 7 あなたは、ふだんどのような近所づきあいをしていますか（1つに○）

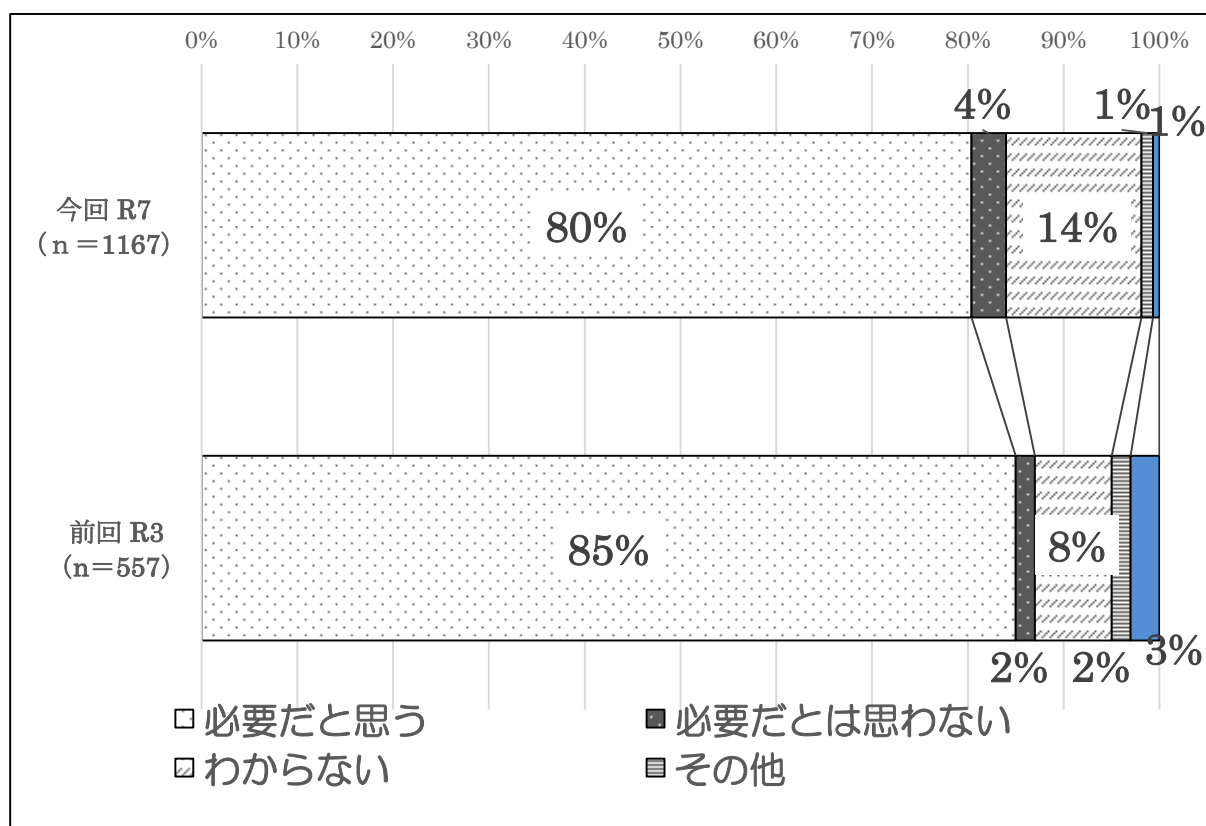


【前回調査との比較】

・「家を行き来するような仲の良い人がいる」は24%から21%に減少し、「近所づきあいはほとんどしていない」6%から9%に増加しました。「会えば親しく話をする人はいる」は前回同様の結果となりました。

・近所づきあいは一定程度維持されている一方で、親密な関係はやや減少しているものとみられます。

問8 地域で暮らす住民同士の自主的な支え合い、助け合いについて、どのように思いますか（1つに○）



【その他】

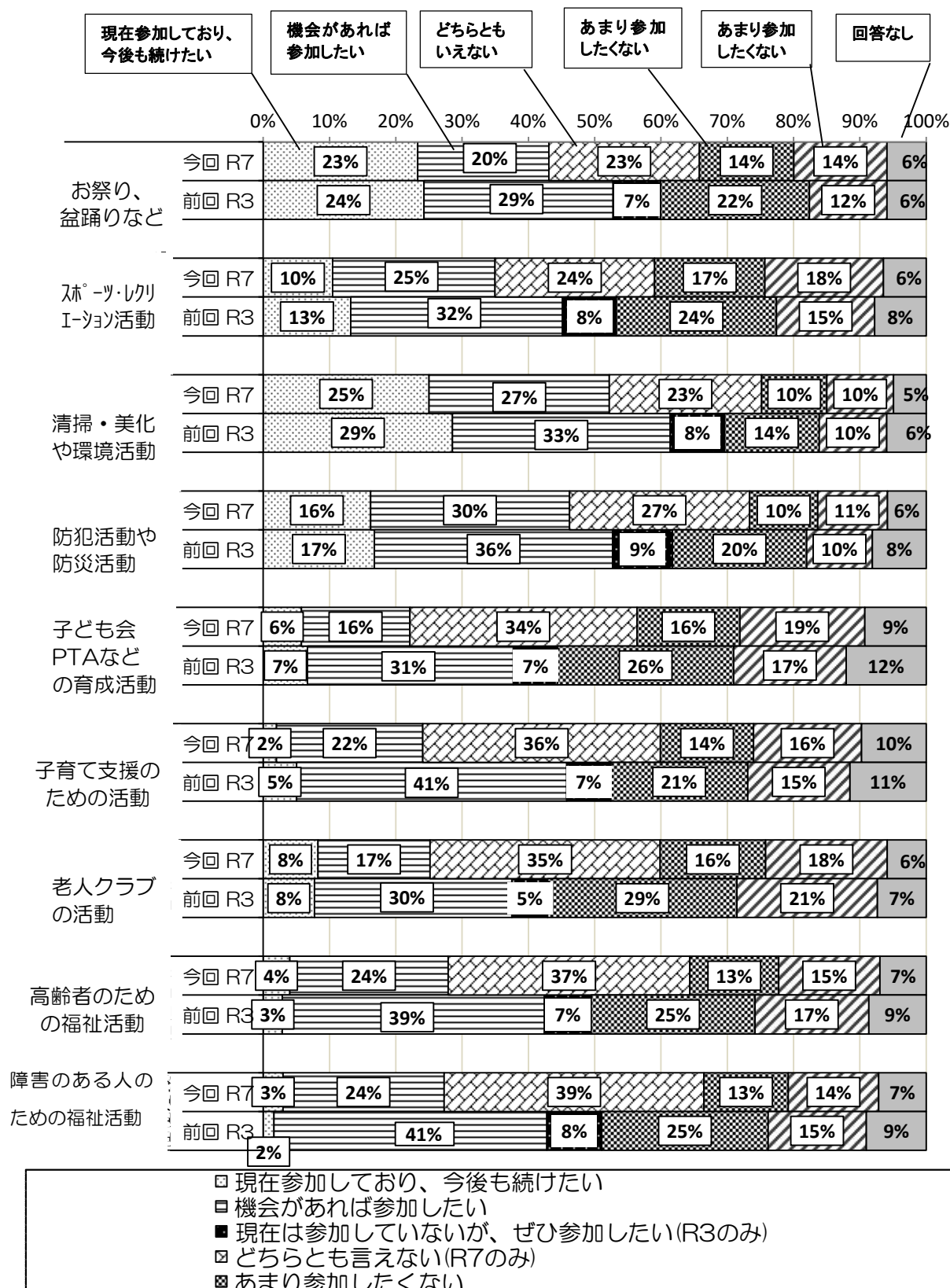
- ・状況によっては、必要だと思う。
- ・必要だと思うが、プライバシーの問題があって、どこまでできるか考えてしまう。
- ・必要だと思うが、行う気持ちにならない。
- ・あえて干渉せず自然体で
- ・お願いされたり、お願いした場合は、お互い様に協力していただける近所づきあいがあります。電話番号も伝えあっています。
- ・昔のような近所付き合いもないので、住民同士というのは、できるのかなと思う。など

【前回調査との比較】

・多くの市民が地域で支え合うことの必要性を認識している一方で、「必要だと思う」が85%から80%に減少し、「わからない」は8%から14%に増加しています。

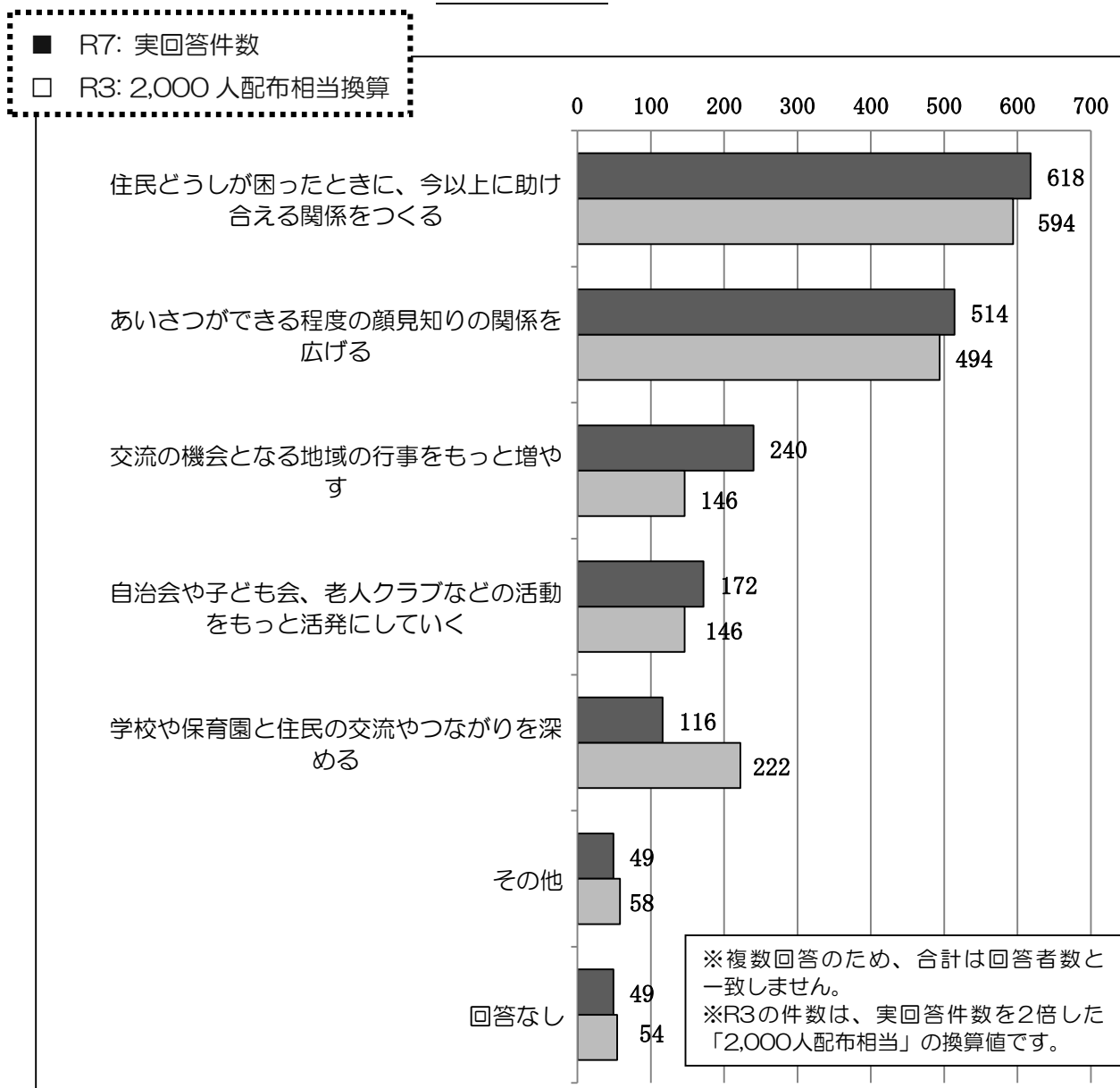
このことから、支え合いの必要性を否定する意見が大きく増えているというよりも、住民同士の支え合いについて、どのように関わればよいのか、どこまで支援してよいのか判断しにくいと感じている人が増えていることがうかがえます。

問9 お住いの地域で行われている行事や活動などに参加していますか



【前回調査との比較】・多くの活動で「機会があれば参加したい」の割合が前回より低下しています。地域活動への参加意向は全体としてやや弱まっており、参加のきっかけづくりや負担感への配慮が必要と考えられます。

問 10 地域活動や行事がさらに活発に行われるようにしていくためには、どのようなことが大切だと思いますか（〇は2つまで）



【その他】

- ・若者が関心を持つような企業誘致
- ・今後は独身世帯が増えるので、地域活動は活発になることはない考える・特に必要ない考える
- ・今以上は望みません
- ・他県、他地域からも参加しやすい行事やイベントの開催
- ・デジタル化の加速、年齢問わずスマホの活用

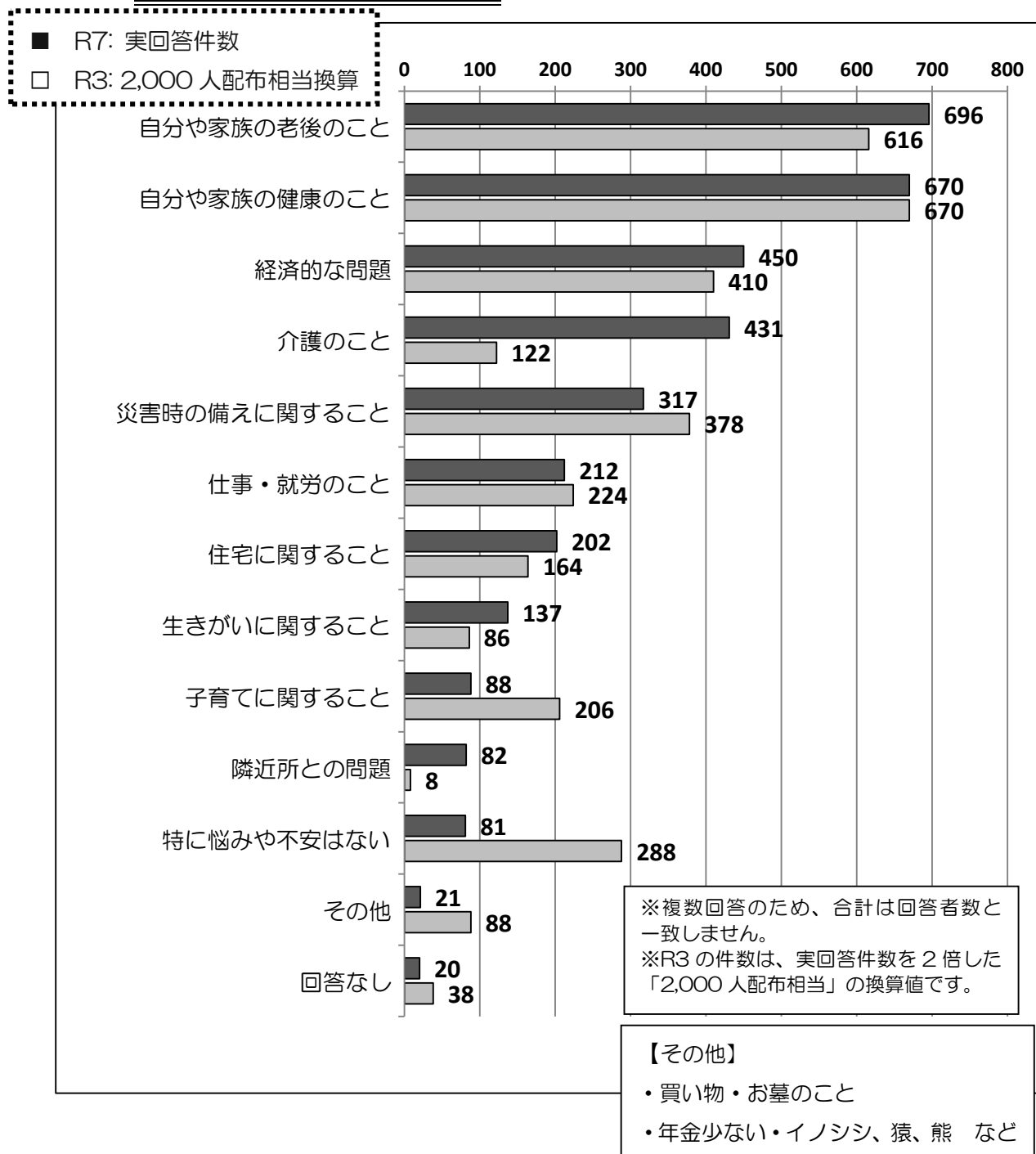
【前回調査との比較】

- ・前回に引き続き、「住民同士が困ったときに助け合える関係をつくること」と「あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げること」が上位となりました。
- ・地域活動の活性化に当たっては、事業の拡充よりも、日常的なつながりの形成が重視されています。

生活するうえでの課題や地域の福祉について

問 11 日頃の生活でどのようなことに悩みや不安を感じていますか

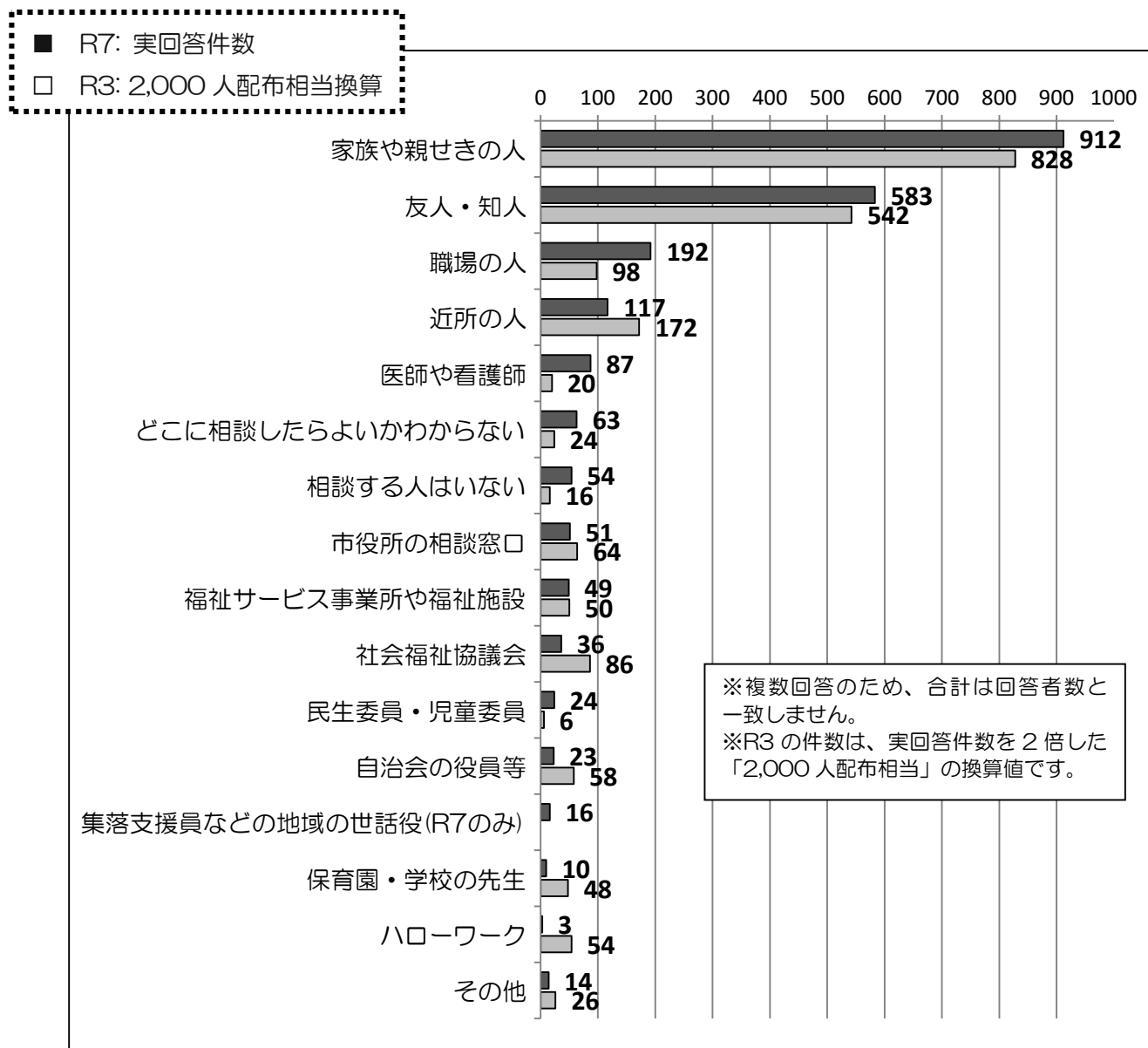
(あてはまるものすべてに○)



【前回調査との比較】

・市民の不安は、単なる一時的な困りごとではなく、高齢期の生活、健康維持、家計、介護、災害対応といった、将来の暮らしの継続に関わる課題に集中していることがうかがえます。

問 12 ふだん悩みや不安があるときに、どんな人（場所）に相談していますか
（あてはまるものすべてに○）



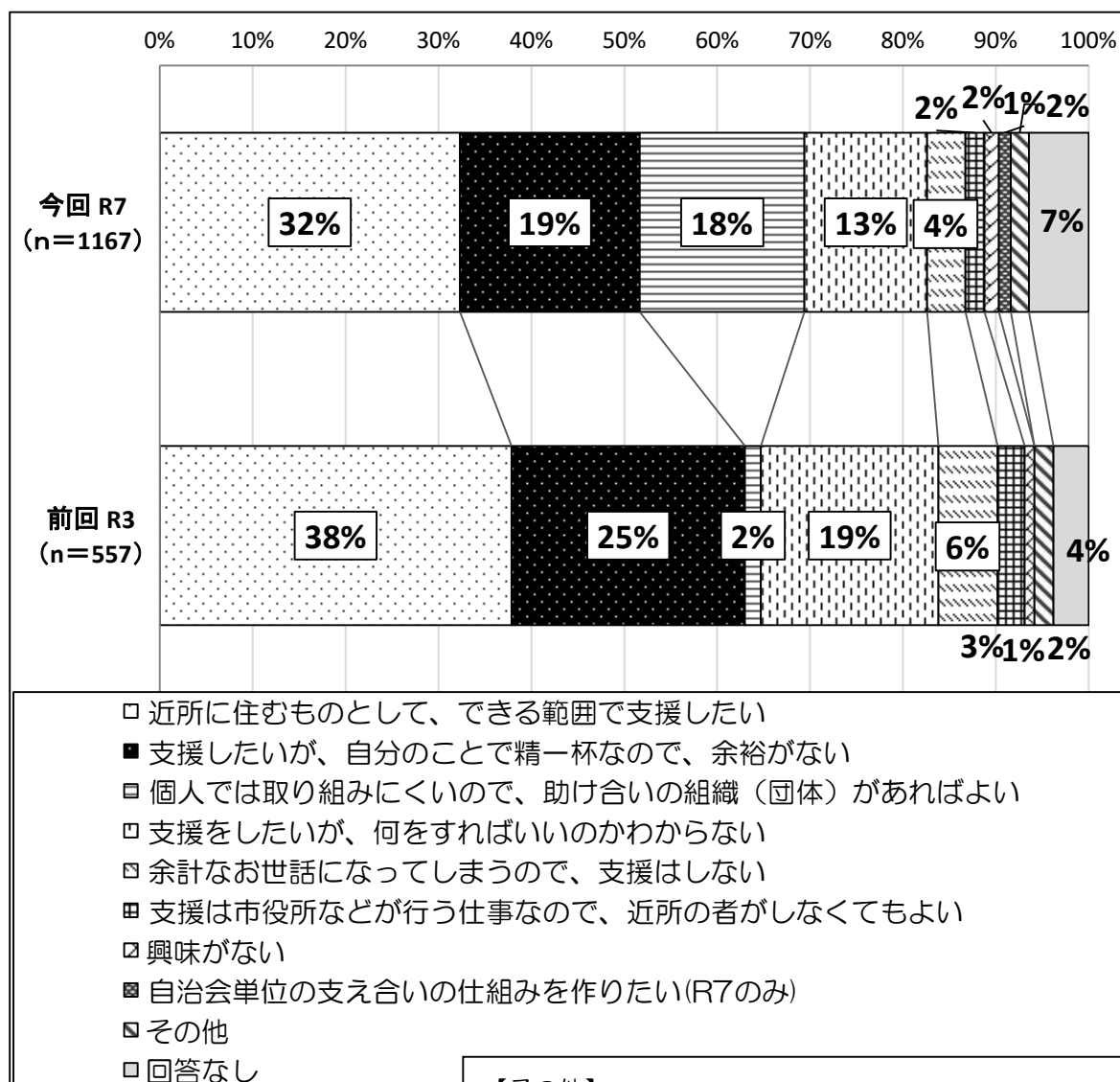
【その他】

- ・ケアマネジャー・ネットの知恵袋
- ・SNS の活用・就労施設・施設の職員
- ・2 人暮らしも心配になってきて、介護や病院通いの相談窓口へお願いする様に近づいているかと思いながら、暮らしております。など

【前回調査との比較】

- ・「家族や親せき」「友人・知人」が引き続き主な相談先でした。一方、「どこに相談したらよいかわからない」は 24 件から 63 件、「相談する人はいない」は 16 件から 54 件の増加となりました。
- ・身近な人への相談が中心である一方で、相談先がわからない人や相談相手がいらない人への対応が課題となります。

問 13 あなたは、近所に困っている人がいた場合の支援をどう考えますか
(1つに○)



【前回調査との比較】

- ・「できる範囲で支援したい」は、38%から32%に減少し、「助け合いの組織があればよい」は、2%から18%に増加となりました。
- ・個人による支援だけでなく、地域の中で支え合う仕組みづくりへのニーズが高まっているものと考えられます。

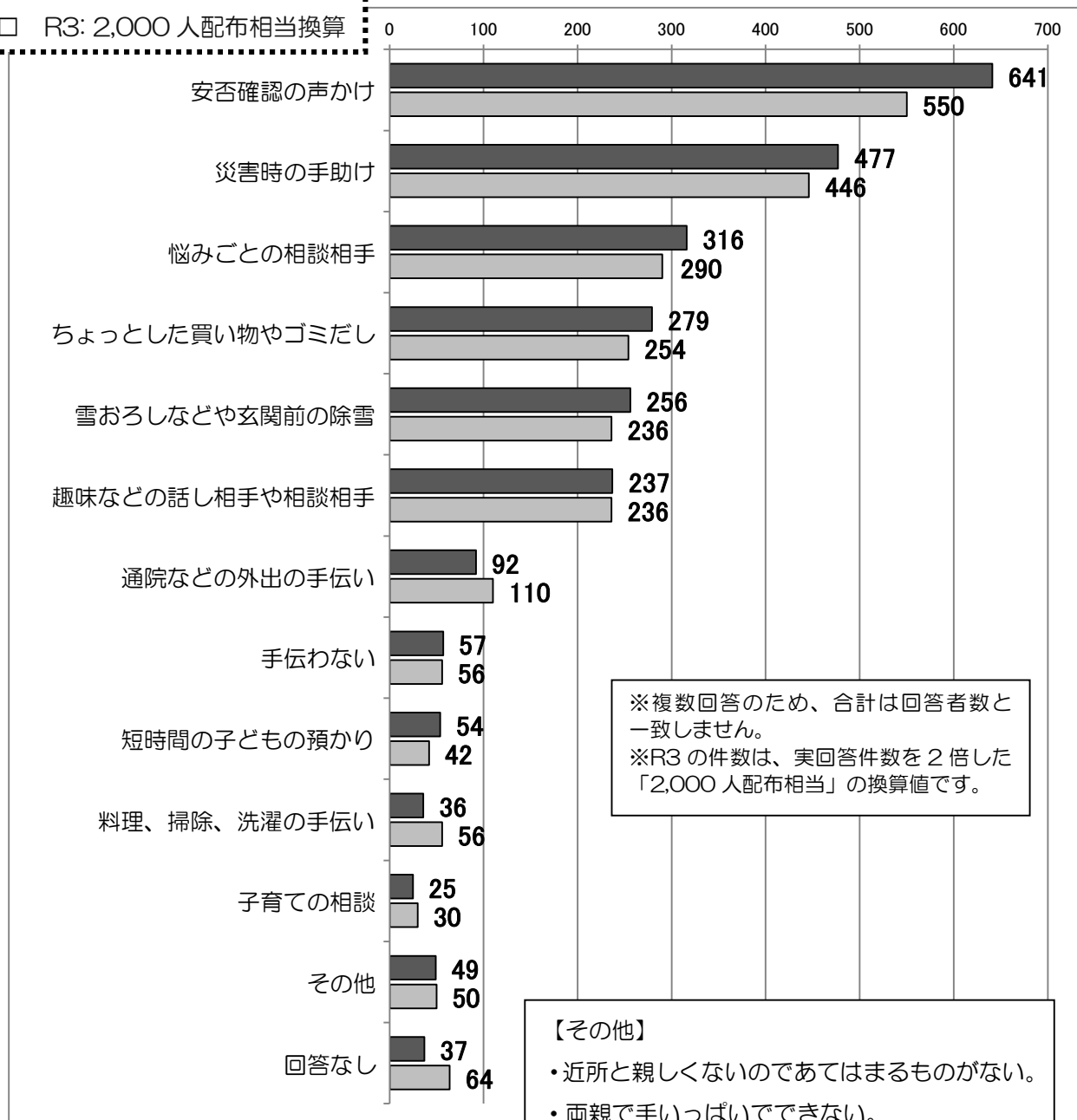
【その他】

- ・近所少なく親しくないで困っているのかどうかもわからない。
- ・困っている内容で支援できるなら支援したいが、余計なお世話にならないか考える。
- ・自分も80才以上なので手伝いたくても何も出来ない。
- ・私の家の隣に1人暮らしのおばあさんに料理を持って行った。喜んでくださった。・困りごとによって、支援したい。
- ・近所で一番高齢夫婦なので皆様に心配されていると思うので出来るだけ気をつけて暮らしたいと思っております。など

問 14 あなたの近所に困っている人がいた場合、どんな支援ができますか
(あてはまるものすべてに○)

■ R7: 実回答件数

□ R3: 2,000 人配布相当換算



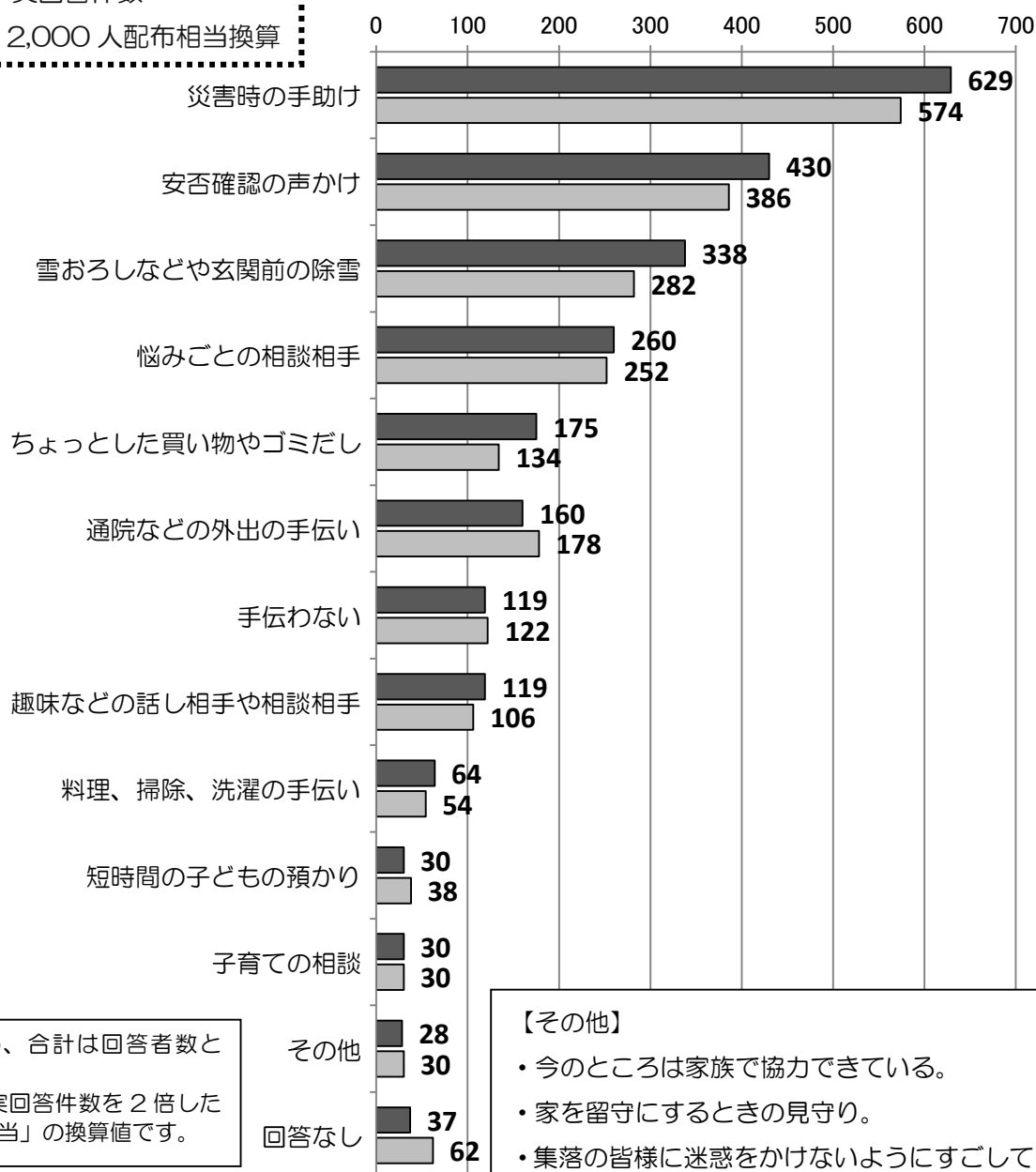
【前回調査との比較】

「安否確認の声かけ」が最も多く、前回調査からも増加していることから、日常的な見守りや声かけは、住民が取り組みやすい支援として捉えられていることがうかがえます。また、「災害時の手助け」や「買い物・ゴミだし」「除雪」など、身近な生活課題への支援意向もみられます。一方で、通院支援や家事支援、子育て支援など、責任や負担が大きい支援は少なく、住民が無理なく関われる支え合いの仕組みづくりと、専門機関につなぐ体制が必要です。

問 15 あなたやご家族が困ったとき、地域でどのような手助けをしてほしいですか
(あてはまるものすべてに○)

■ R7: 実回答件数

□ R3: 2,000 人配布相当換算



※複数回答のため、合計は回答者数と一致しません。

※R3 の件数は、実回答件数を 2 倍した「2,000 人配布相当」の換算値です。

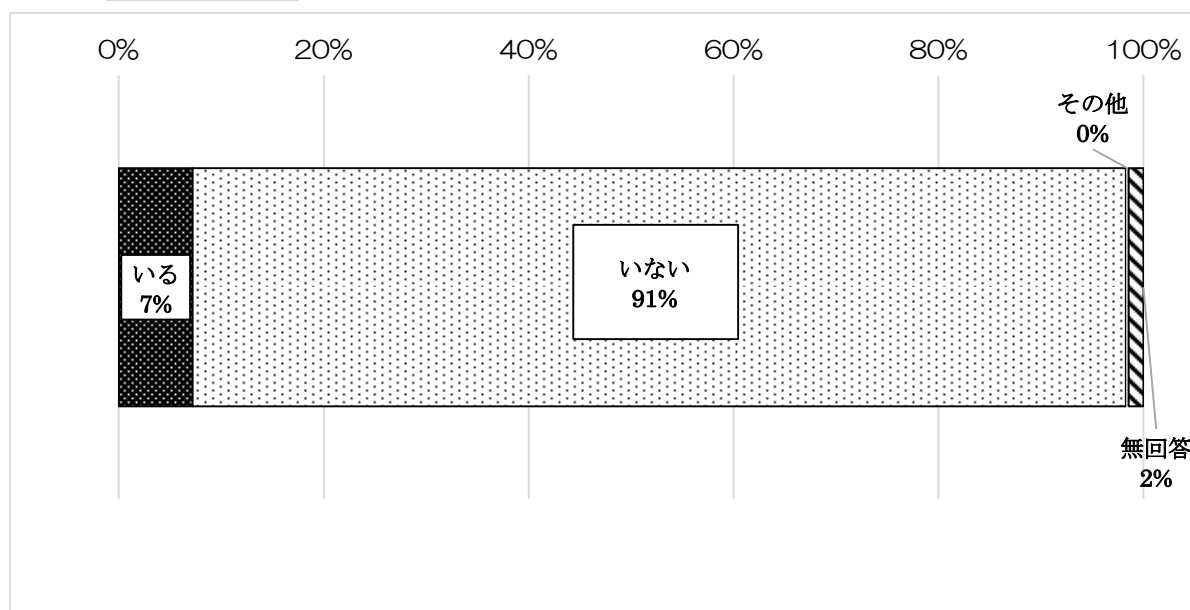
【その他】

- ・今のところは家族で協力できている。
- ・家を留守にする時の見守り。
- ・集落の皆様に迷惑をかけないようにすごしています。
- ・今は必要としていないので実感が無い。
- ・付き合いがないので助けてもらう義理がない。など

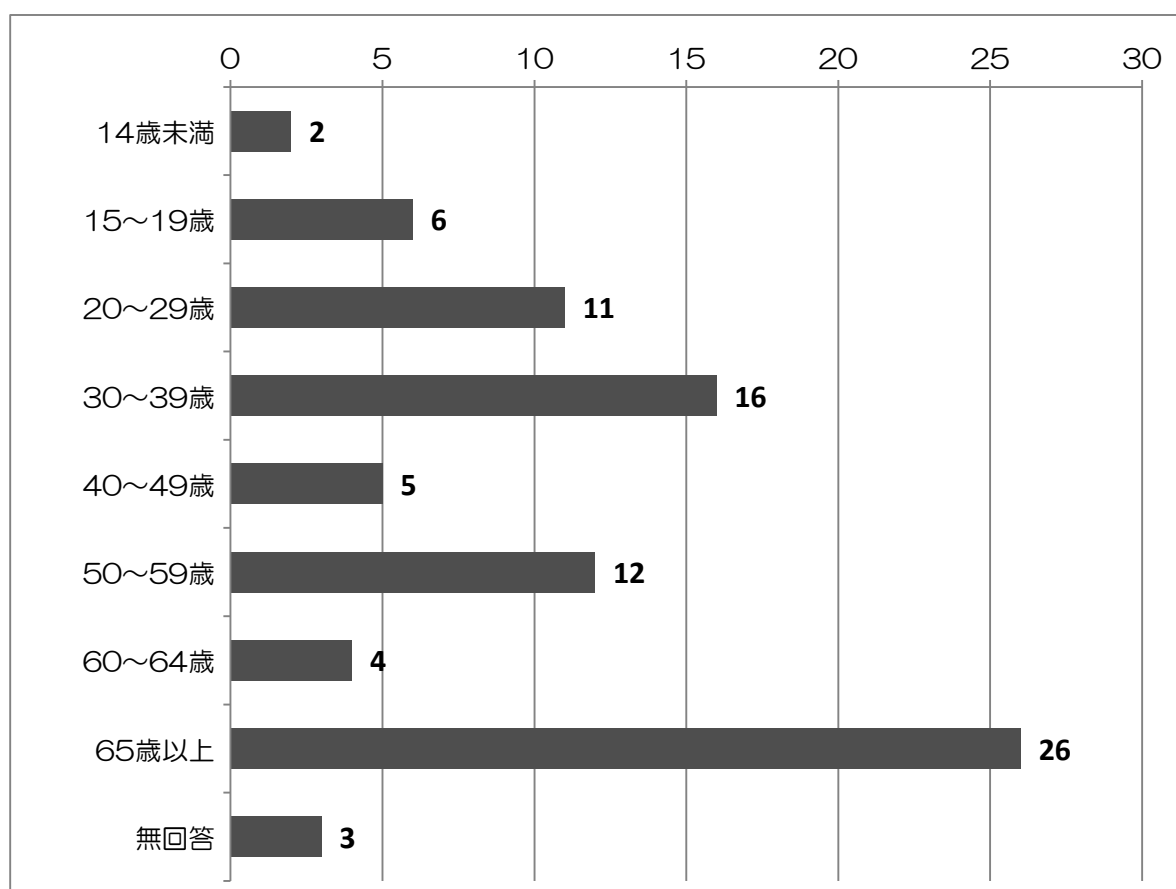
【前回調査との比較】

「災害時の手助け」が最も多く、次いで「安否確認の声かけ」「雪おろしなどや玄関前の除雪」が多くなっています。前回調査と比較しても、災害時支援、安否確認、除雪、買い物やゴミ出しが増加しており、災害や雪への対応、日常生活に密着した支援へのニーズが高まっていることがうかがえます。今後は、見守りや声かけなど地域で取り組みやすい支え合いを広げるとともに、除雪や通院支援など負担の大きい支援については、関係機関と連携した仕組みづくりが必要です。

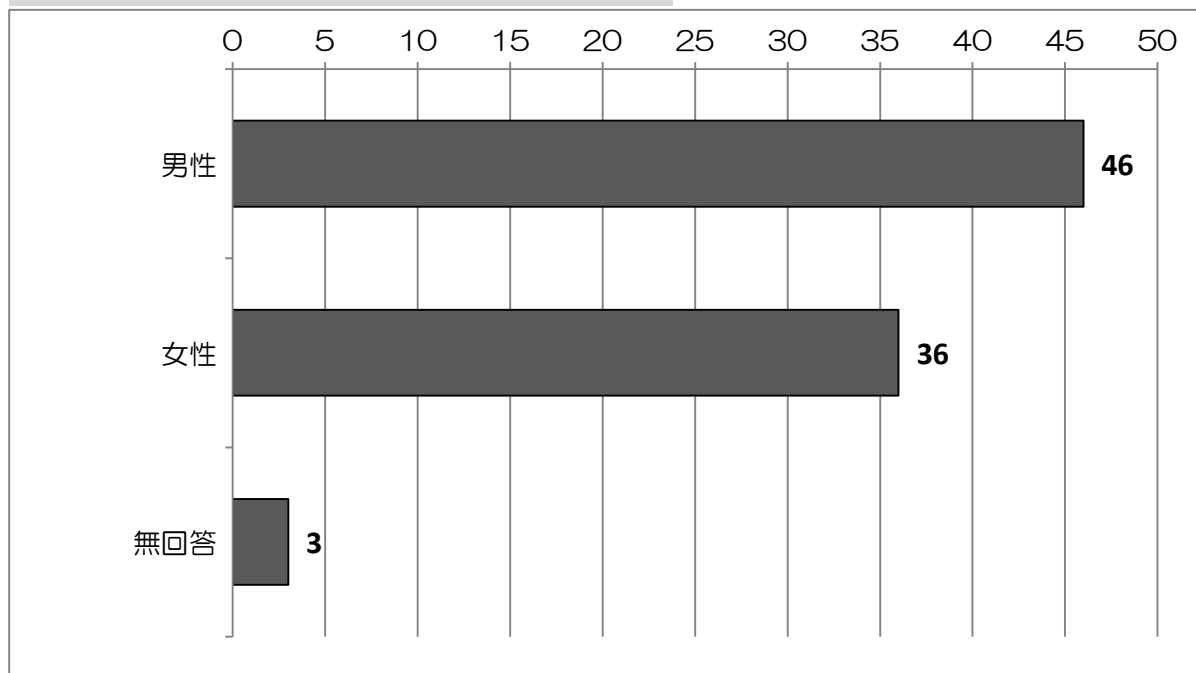
問 16 あなたのご家庭の中に（回答者自身を含めて）仕事や学校に行けず、家族以外の人とほとんど交流をしていない方（ひきこもりがちな方）はいらっしゃいますか【新】



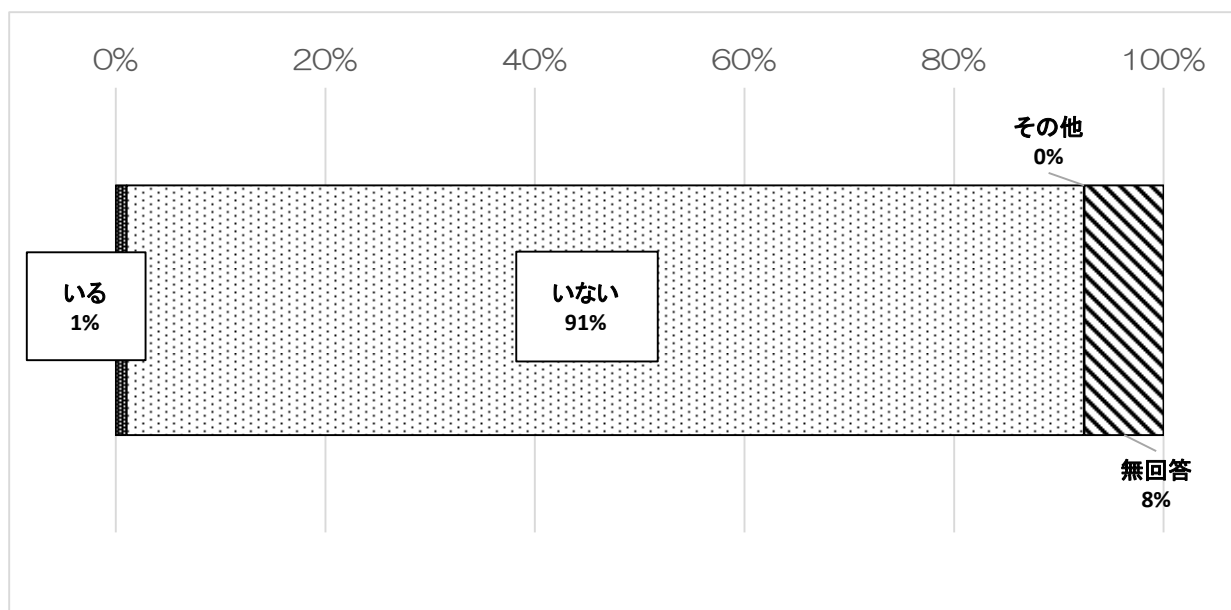
問 17 その方の年齢をお答えください【新】



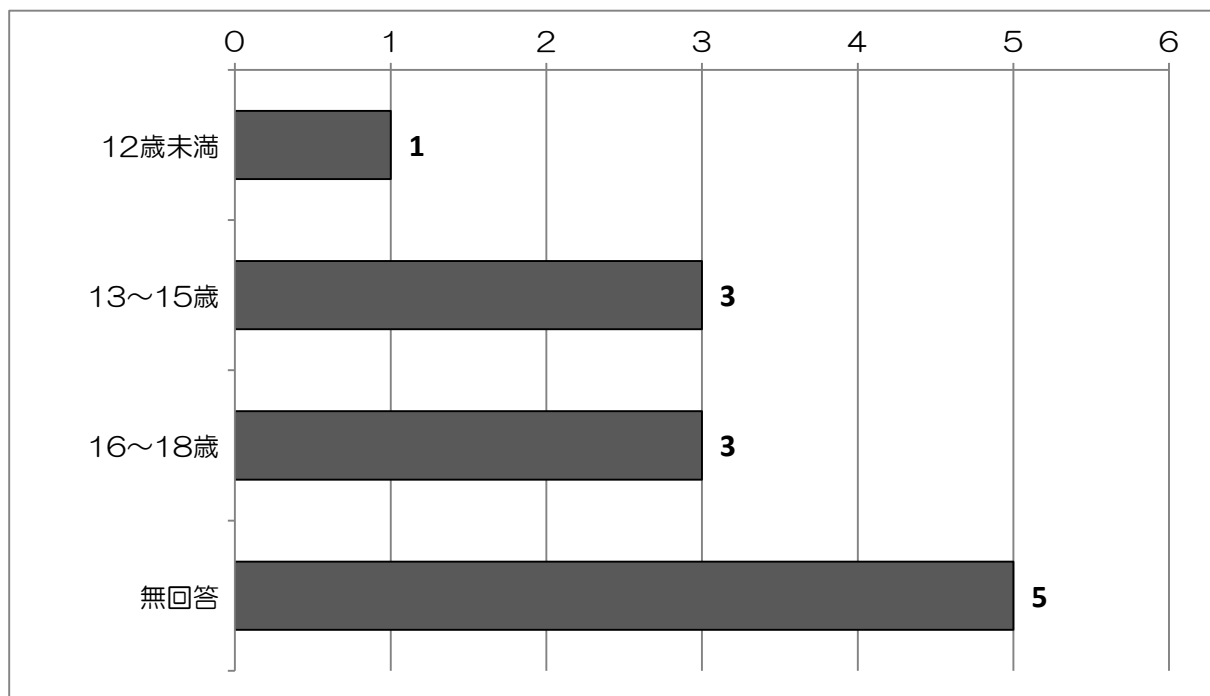
問 18 その方の性別をお答えください【新】



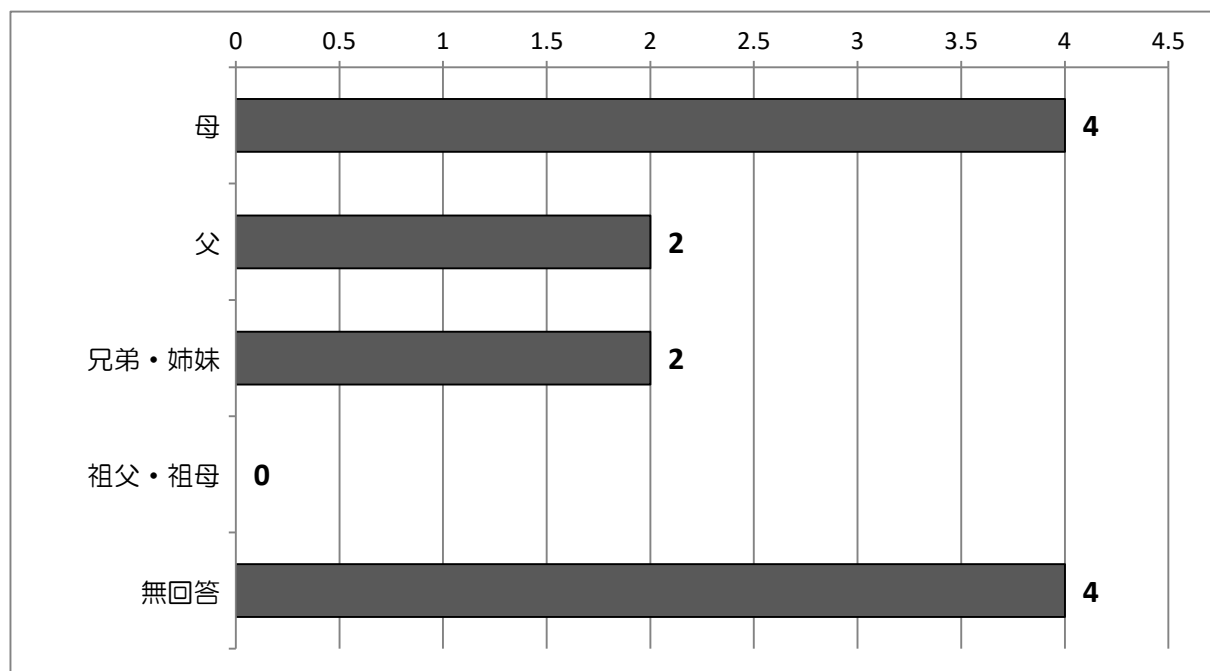
問 19 あなたのご家庭の中に（回答者も含めて）親や兄弟・姉妹などに日常的に生活支援（家事、介護など）をしている 12 歳から 18 歳までの人はいますか【新】



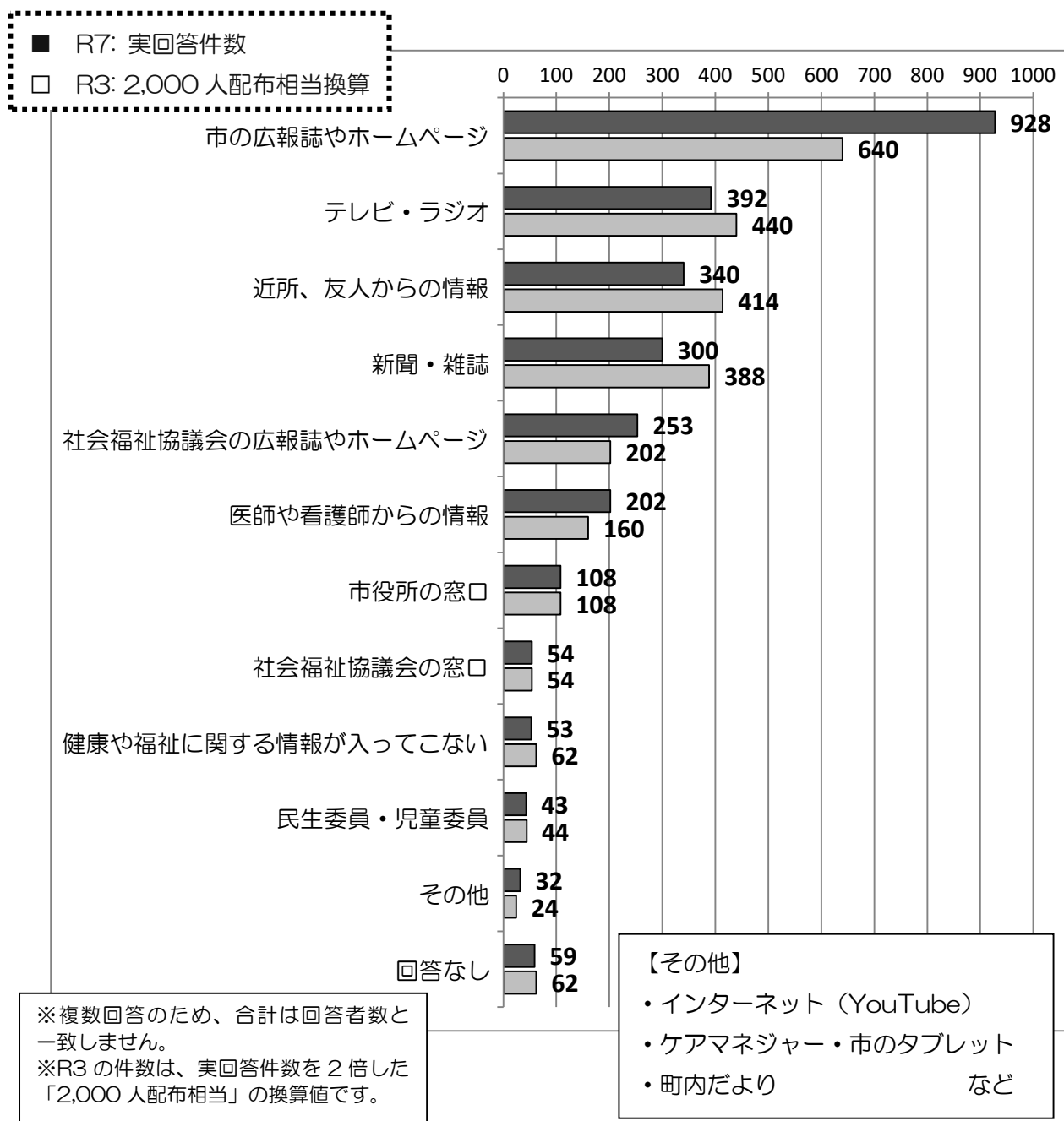
問 20 問 19 で「いる」と答えた方にお聞きします。その方の年齢をお答えください【新】



問 21 だれを介護していますか【新】



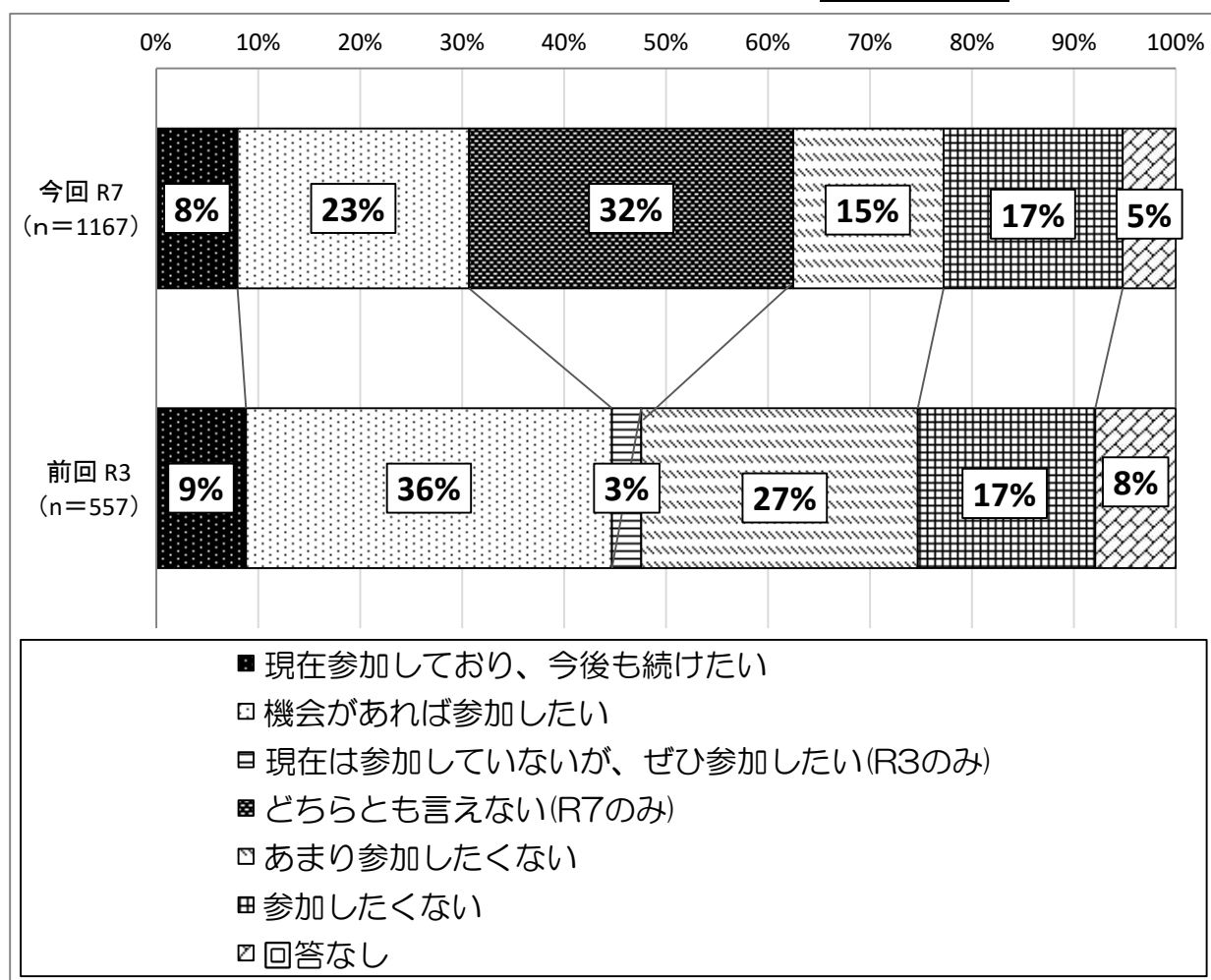
問 22 健康や福祉に関する情報を得るうえで、役に立っていると感じるものは何ですか（あてはまるものすべてに○）



【前回調査との比較】

- ・「市の広報誌やホームページ」は、640 件から 928 件に増加した。一方で、「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌」「近所・友人からの情報」は減少となりました。
- ・市の公式発信力が強まっているとかがえます。

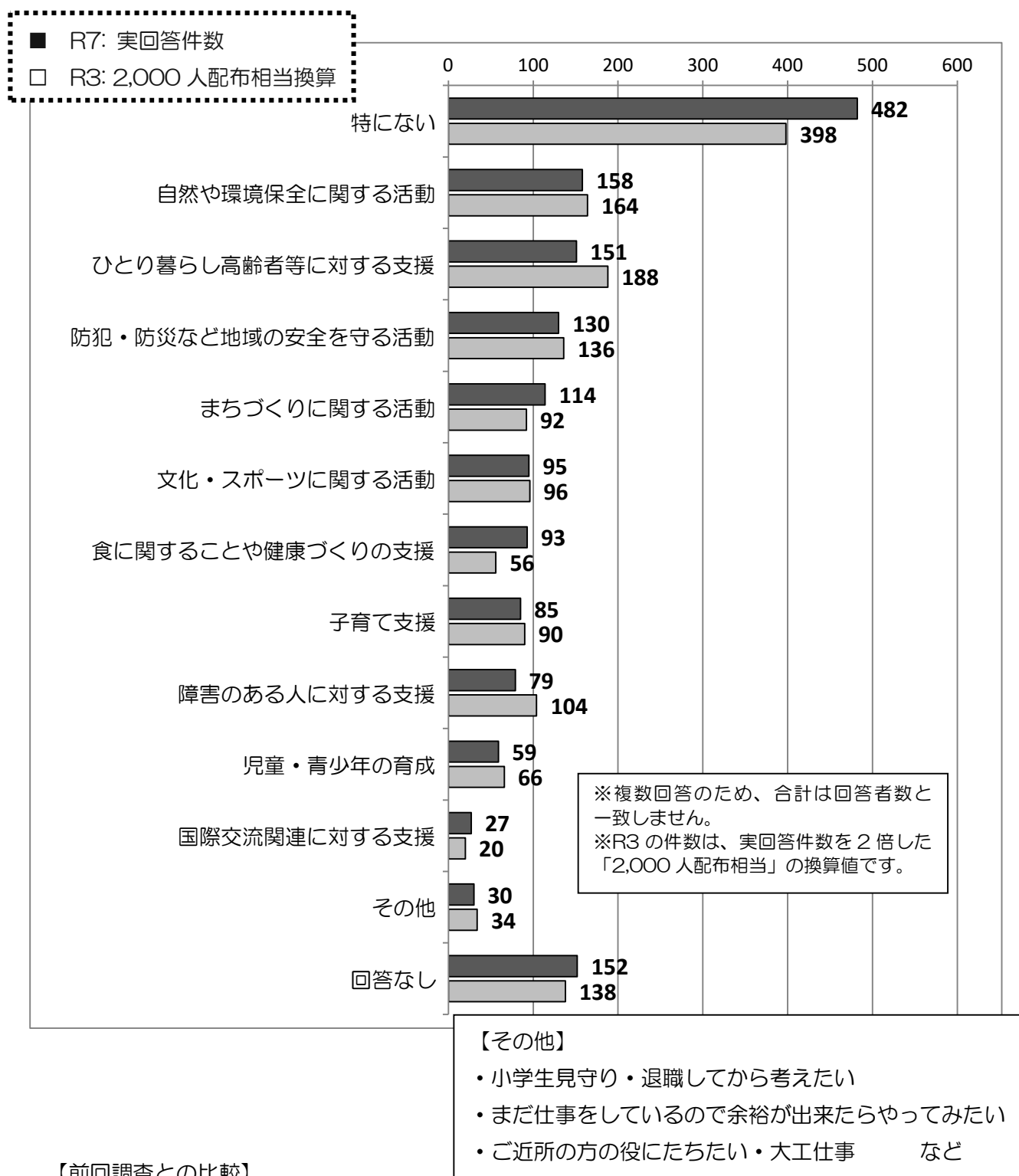
問 23 あなたは、ボランティア活動に参加していますか（1つに○）



【前回調査との比較】

「現在参加しており、今後も続けたい」は8%で前回と同じでした。一方、「機会があれば参加したい」は23%あるものの、「どちらとも言えない」が32%で最も多く、ボランティア活動への参加について判断を保留している層が多いことがうかがえます。今後は、活動内容の周知や参加のきっかけづくり、短時間・単発型など参加しやすい活動の工夫により、無理なくボランティア活動に関われる環境づくりが必要です。

問 24 今後、参加したいと思うボランティア活動などがありますか
(あてはまるものすべてに○)

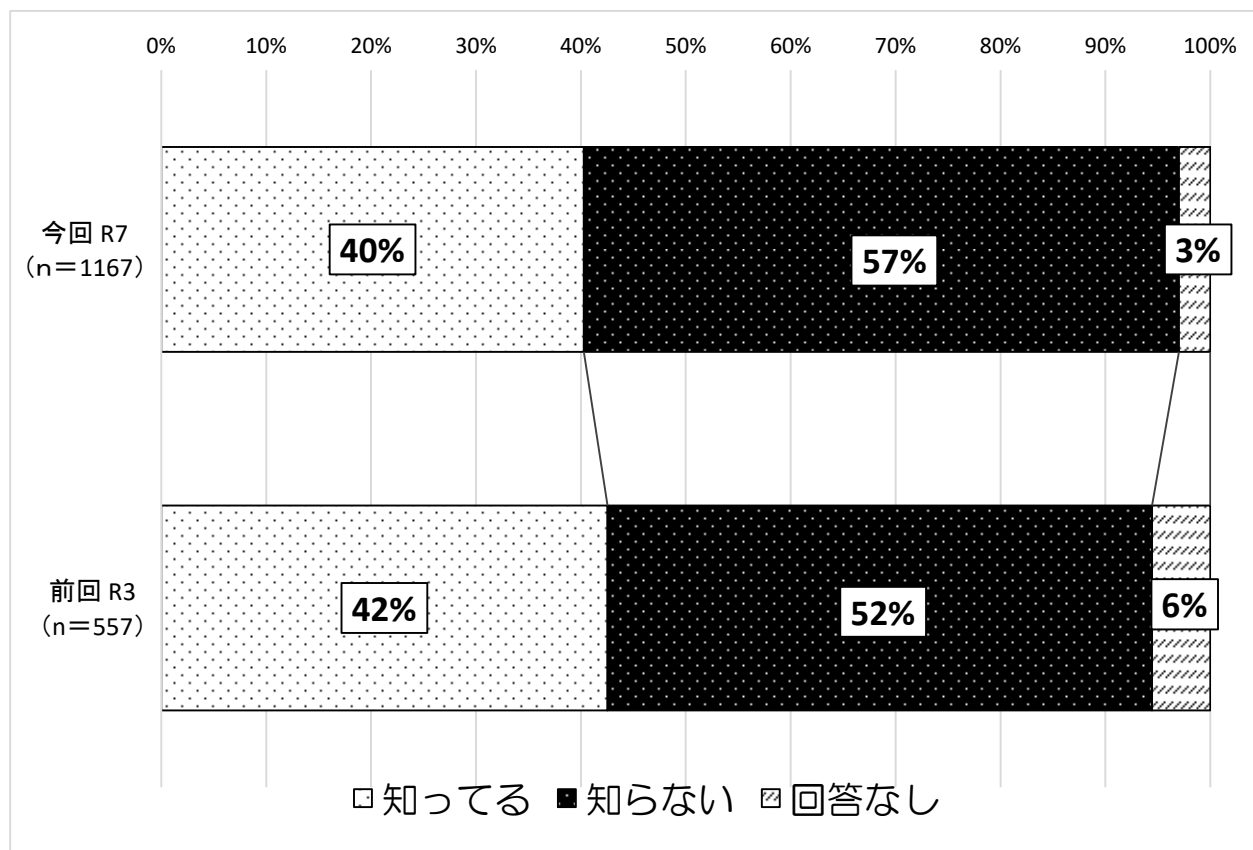


【前回調査との比較】

- ・「特になし」は、398 件から 482 件に増加し、「ひとり暮らし高齢者等に対する支援」や「障害のある人に対する支援」などは減少しました。「食に関することや健康づくりの支援」「まちづくりに関する活動」は、やや増加しました。
- ・ボランティア活動への関心には、やや低下傾向がみられ、参加しやすい環境づくりが求められます。

地域福祉を進めるための取り組みについて

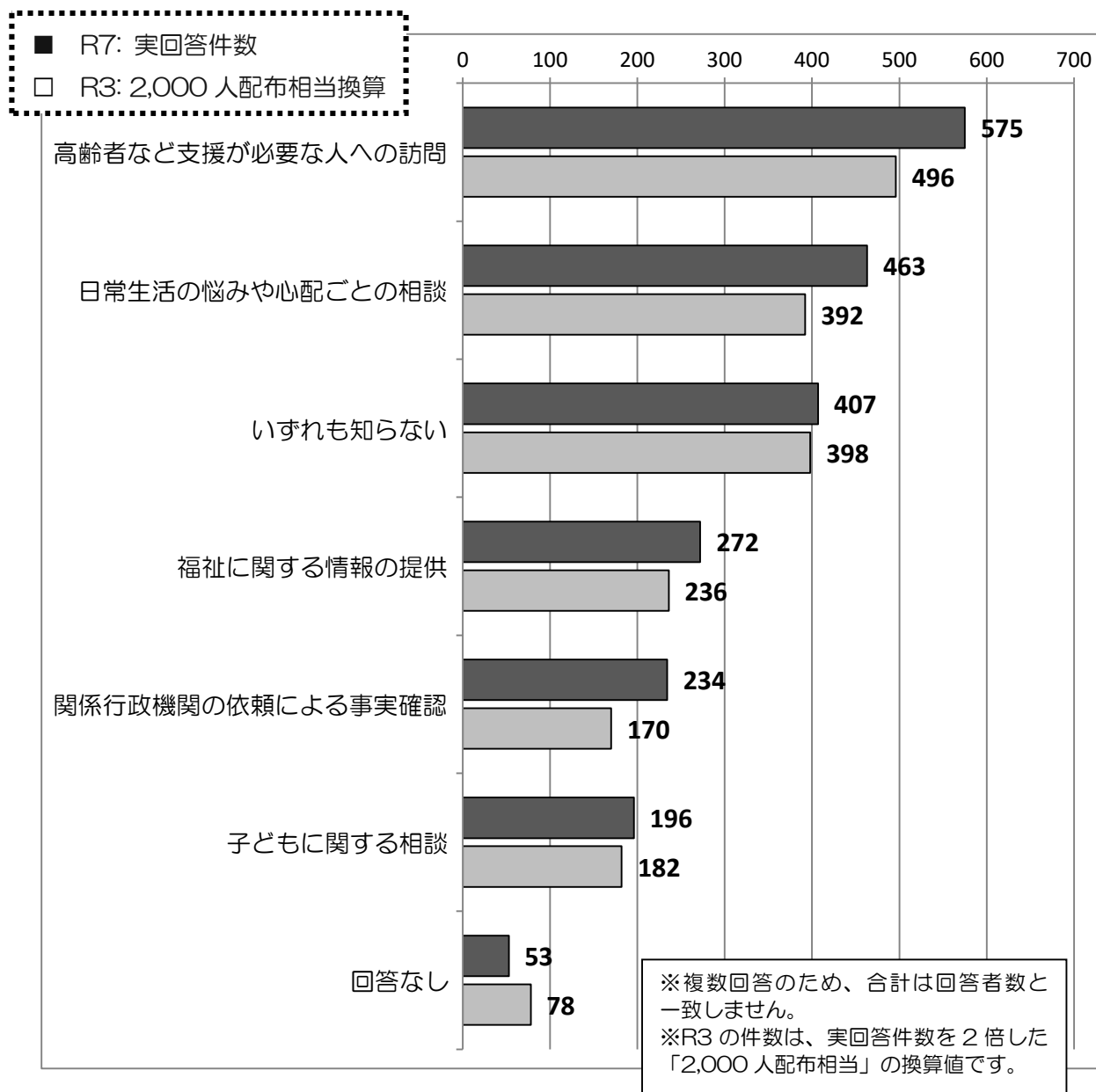
問 25 あなたの地区の民生委員・児童委員を知っていますか (1 つに〇)



【前回調査との比較】

- ・「知っている」が42%から40%に減少した一方で、「知らない」は52%から57%に増加し、依然として・半数超えが依然として「知らない」と回答しています。
- ・認知は十分といえず、役割を含めた周知が必要です。

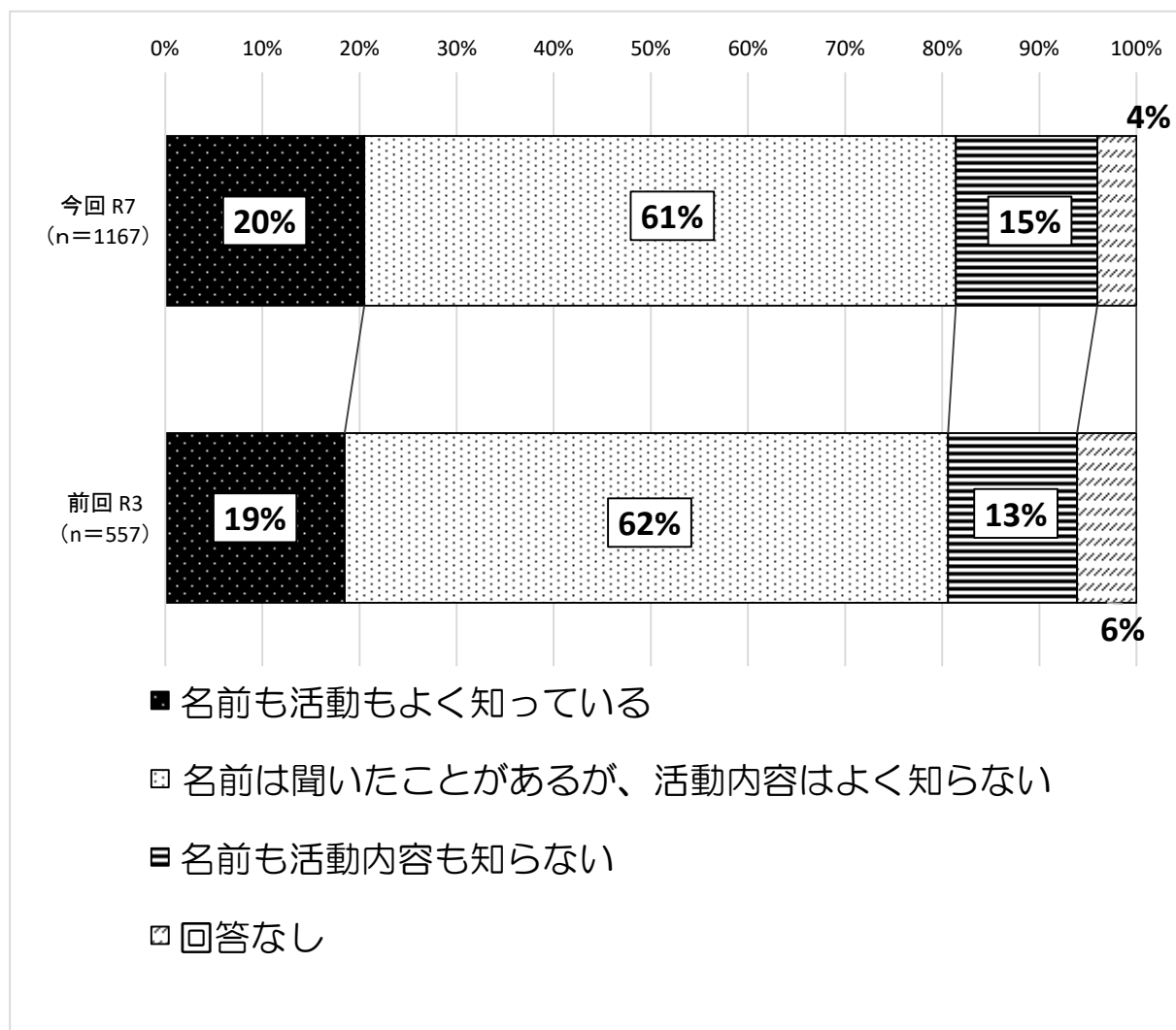
問 26 民生委員・児童委員が、地域福祉に関する下記の活動を行っていること知っていますか（知っているものすべてに○）



【前回調査との比較】

- ・「高齢者など支援が必要な人への訪問」や「日常生活の悩みや心配ごとの相談」などの認知は増加したが、「いずれも知らない」も 398 件から 407 件と引き続き多い結果でした。
- ・知っている人には浸透しているが、知らない人には届いていない状況である。
- ・認知の二極化が進んでいます。

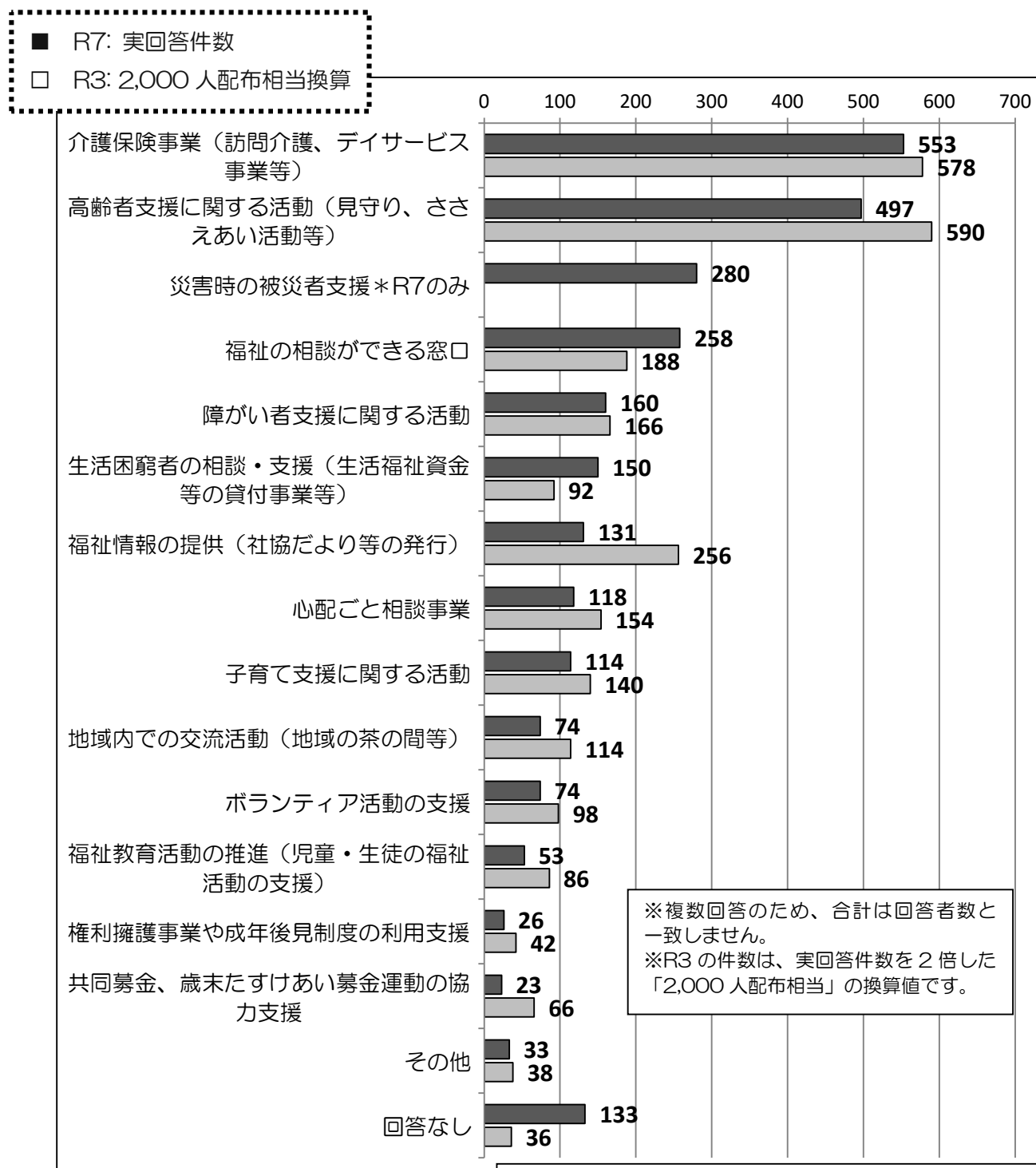
問 27 社会福祉協議会の活動について知っていますか (1 つに〇)



【前回調査との比較】

・「名前も活動もよく知っている」は、19%から20%で大きな変化はありませんでした。「名前は聞いたことがあるが、活動内容は良く知らない」が引き続き最も多く6割超。また、「名前も活動内容も知らない」は13%から15%に増加しており、社会福祉協議会を全く知らない人も一定数存在しています。

問 28 あなたは、社会福祉協議会にどのようなことを期待しますか（〇は3つまで）



【前回調査との比較】

引き続き介護や高齢者支援への期待が大きい一方で、前回と比べて相談窓口や生活困窮者支援への期待が高まっています。

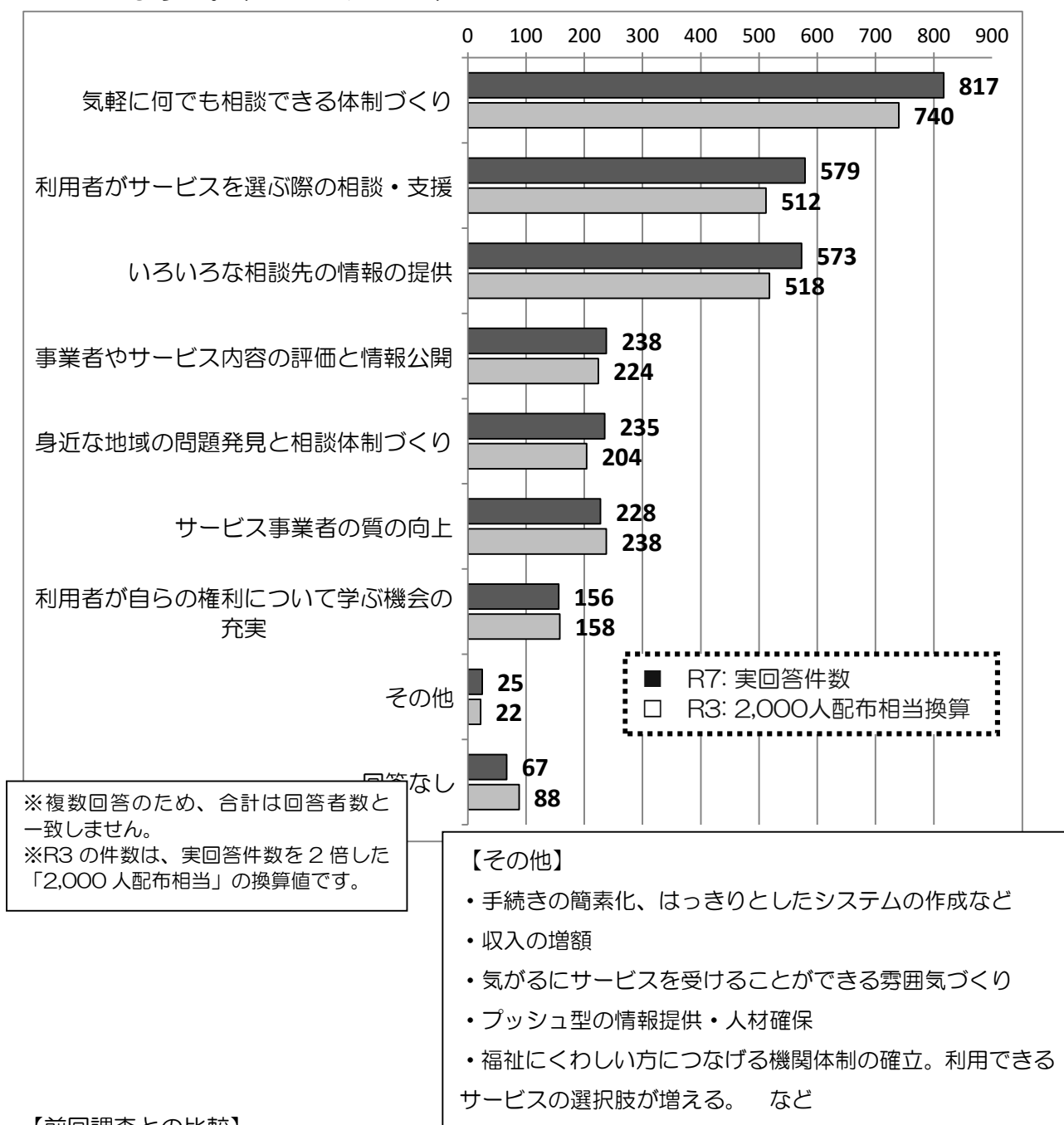
また、今回新たに設けた「災害時の被災者支援」も 280 件と多く、災害時における支援機能への期待も大きいことがうかがえます。

【その他】

- ・地域内での交流活動は不必要である、ボランティア活動の支援は不要である。
- ・活動内容をよく知らないので答えようがないです。
- ・真剣な思いやりある活動。
- ・仕事内容を理解していないので答えられない。

など

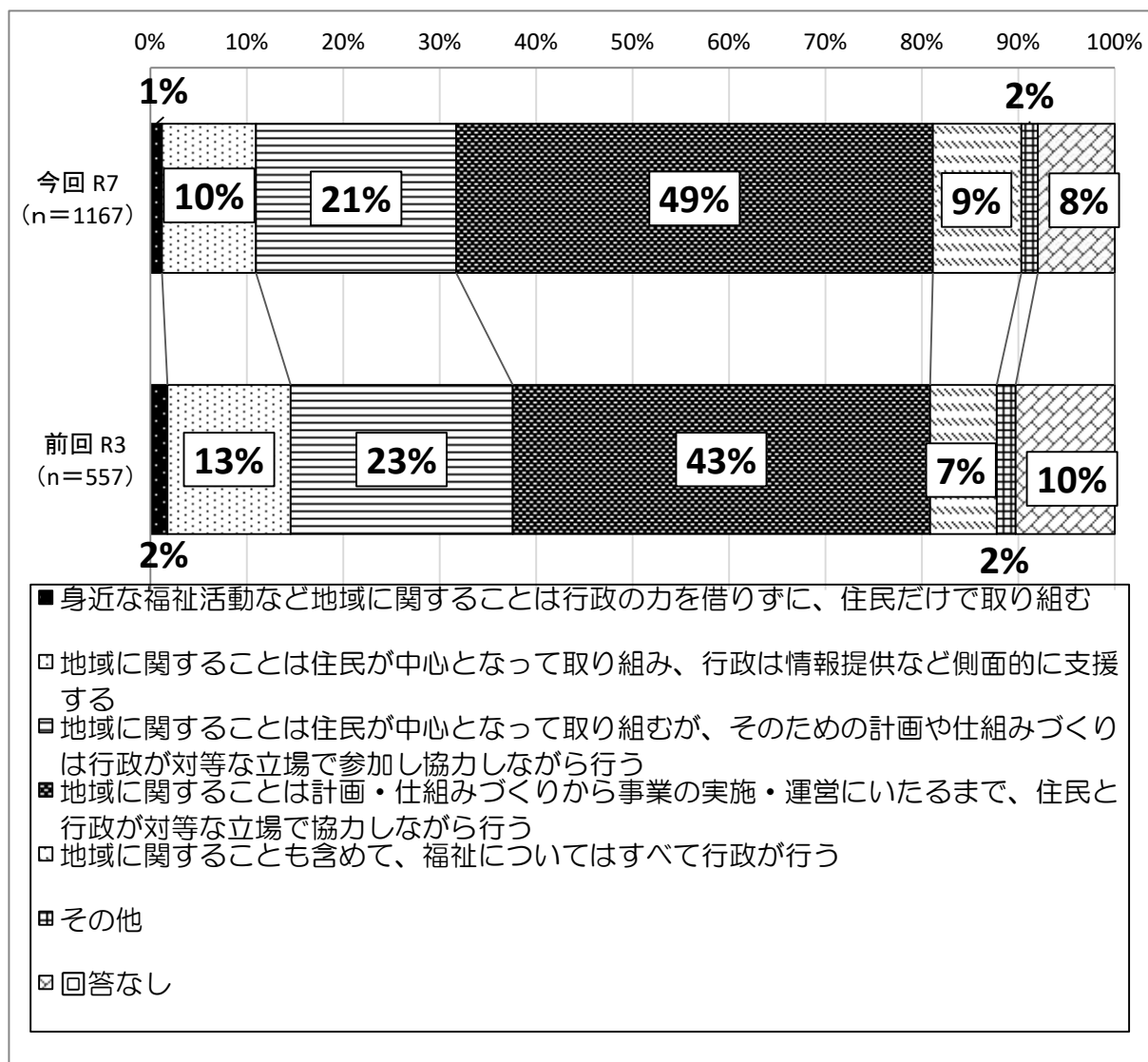
問 29 高齢者や障がいのある人、子ども、子育てをしている人などが必要な福祉サービスを受けることができるようにするために、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）



【前回調査との比較】

- ・「気軽に何でも相談できる体制づくり」は740件から817件、「いろいろな相談先の情報の提供」は518件から573件に増加しています。
- ・福祉サービスの利用促進には、相談体制の充実とわかりやすい情報提供が一層重要になっていることが読み取れます。

問 30 福祉をはじめとして、地域の中のさまざまな課題を解決し、よりよい地域をつかっていくためには、地域住民と行政が協力・連携していくことが大切です。あなたは、こうした協力・連携のあり方としてどのような形が望ましいと思いますか（お考えに最も近いもの 1 つに○）

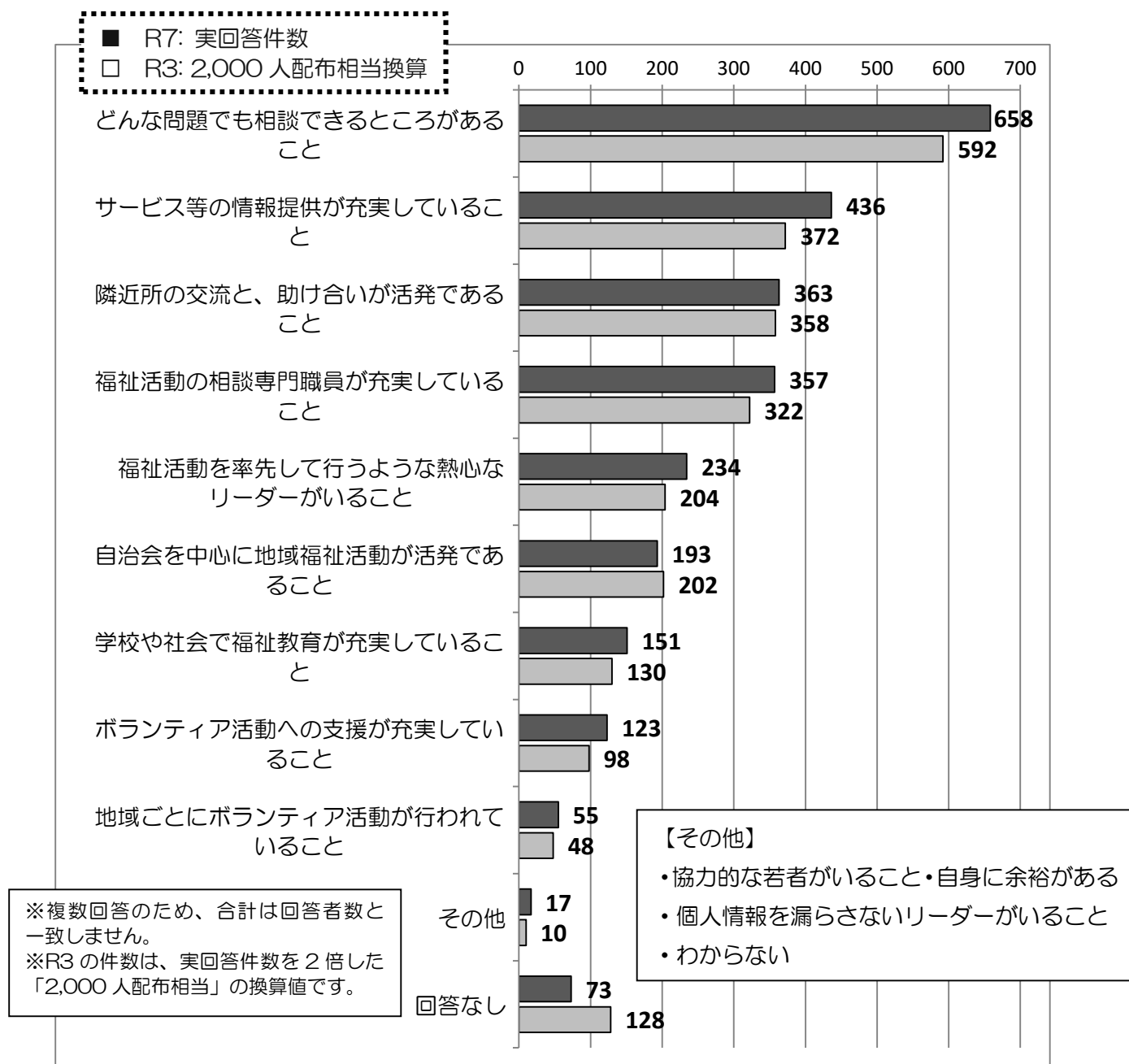


【前回調査との比較】

・「地域に関することは計画・仕組みづくりから事業の実施・運営にいたるまで、住民と行政が対等な立場で協力しながら行う」は 43%から 49%に増加しています。このことから、地域福祉の推進にあたっては、住民任せでも行政任せでもなく、住民と行政が一緒に考え、一緒に取り組む協働型の進め方を望む市民が増えていることが分かります。

・一方で、住民だけで取り組む、または住民が中心となって行政が側面的に支援するという回答は、いずれも前回より減少しています。地域の高齢化や担い手不足、近所づきあいの希薄化などにより、住民だけで地域課題に対応することには限界を感じている人が増えている可能性があります。

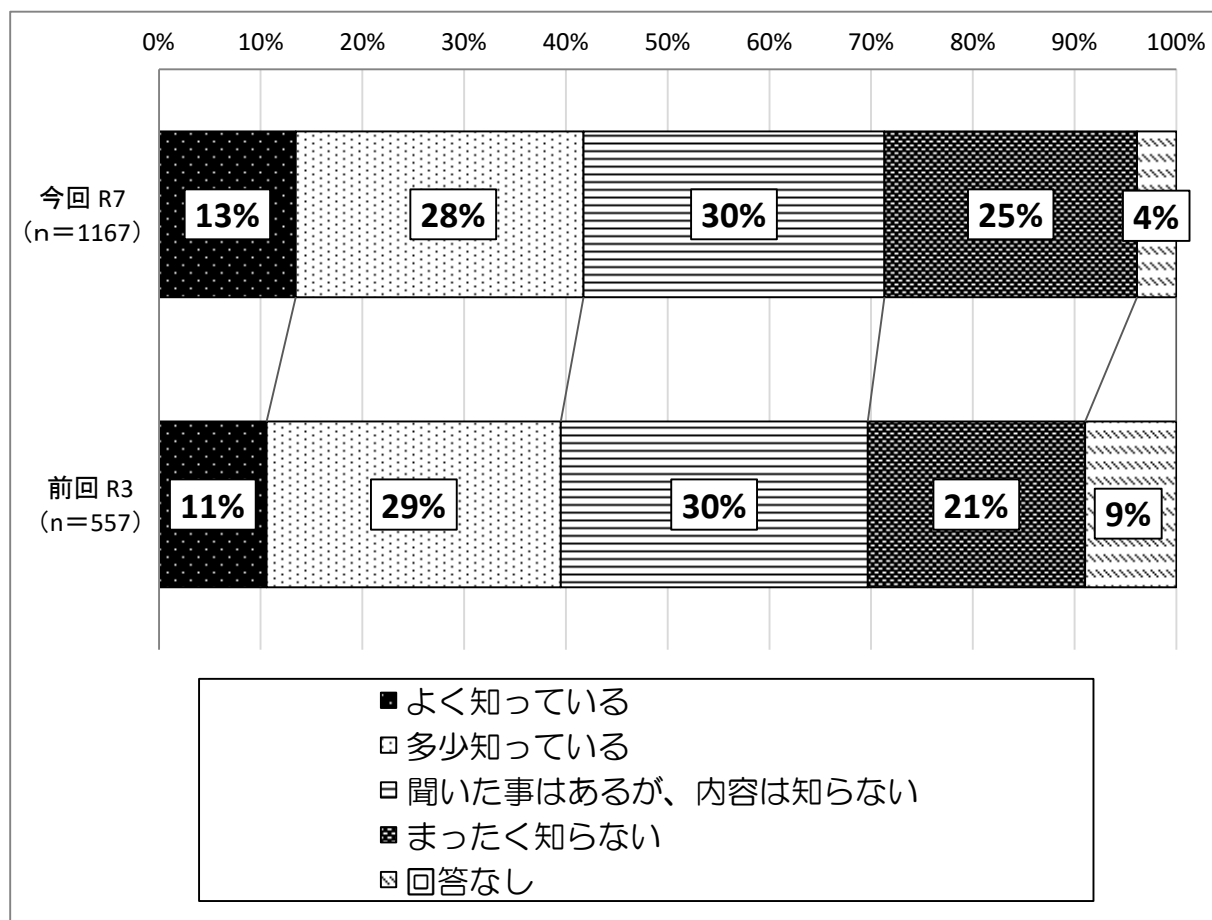
問 31 身近な地域で住民が助け合い支え合うために、どのようなことが大切だと思いますか（〇は3つまで）



【前回調査の比較】

- ・「どんな問題でも相談できるところがあること」は 592 件から 658 件、「サービス等の情報提供が充実していること」は 372 件から 436 件に増加しています。
- ・「回答なし」が減っており、問題意識が明確になっています。

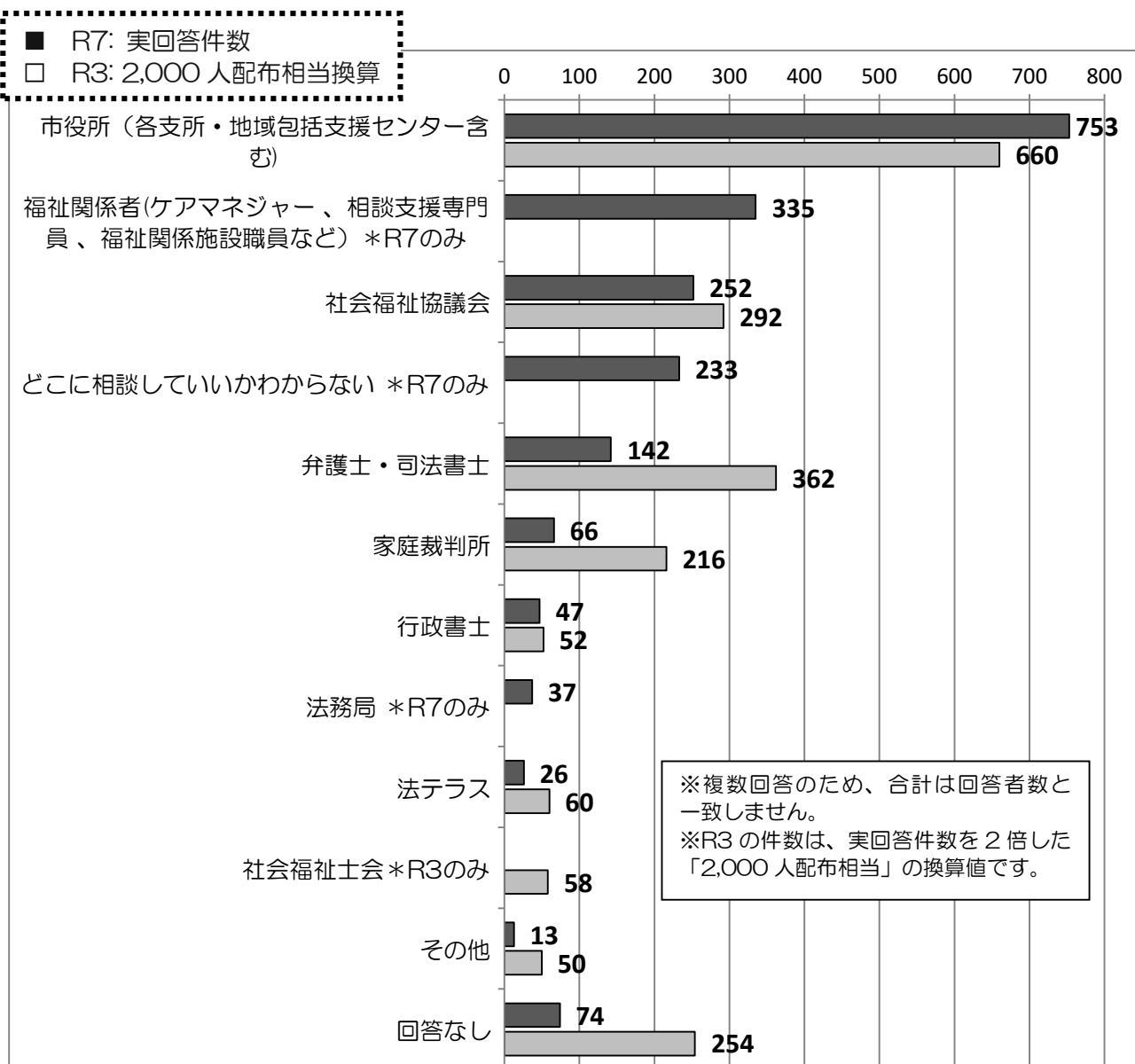
問 32 認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力が不十分な方のために、
『成年後見制度』がある事を知っていますか。(〇は1つ)



【前回調査との比較】

「よく知っている」「多少知っている」を合わせた割合は41%で、前回調査からほぼ横ばいです。一方、「聞いたことがあるが、内容は知らない」が30%、「全く知らない」が25%となっており、制度内容の理解や周知には課題があります。今後は、制度の内容や相談先、利用できる場面を分かりやすく伝え、必要な人が早期に支援につながる体制づくりが必要です。

問 33 『成年後見制度』について相談したいとき、どこに相談しますか。
(相談しようと思うところすべてに○)



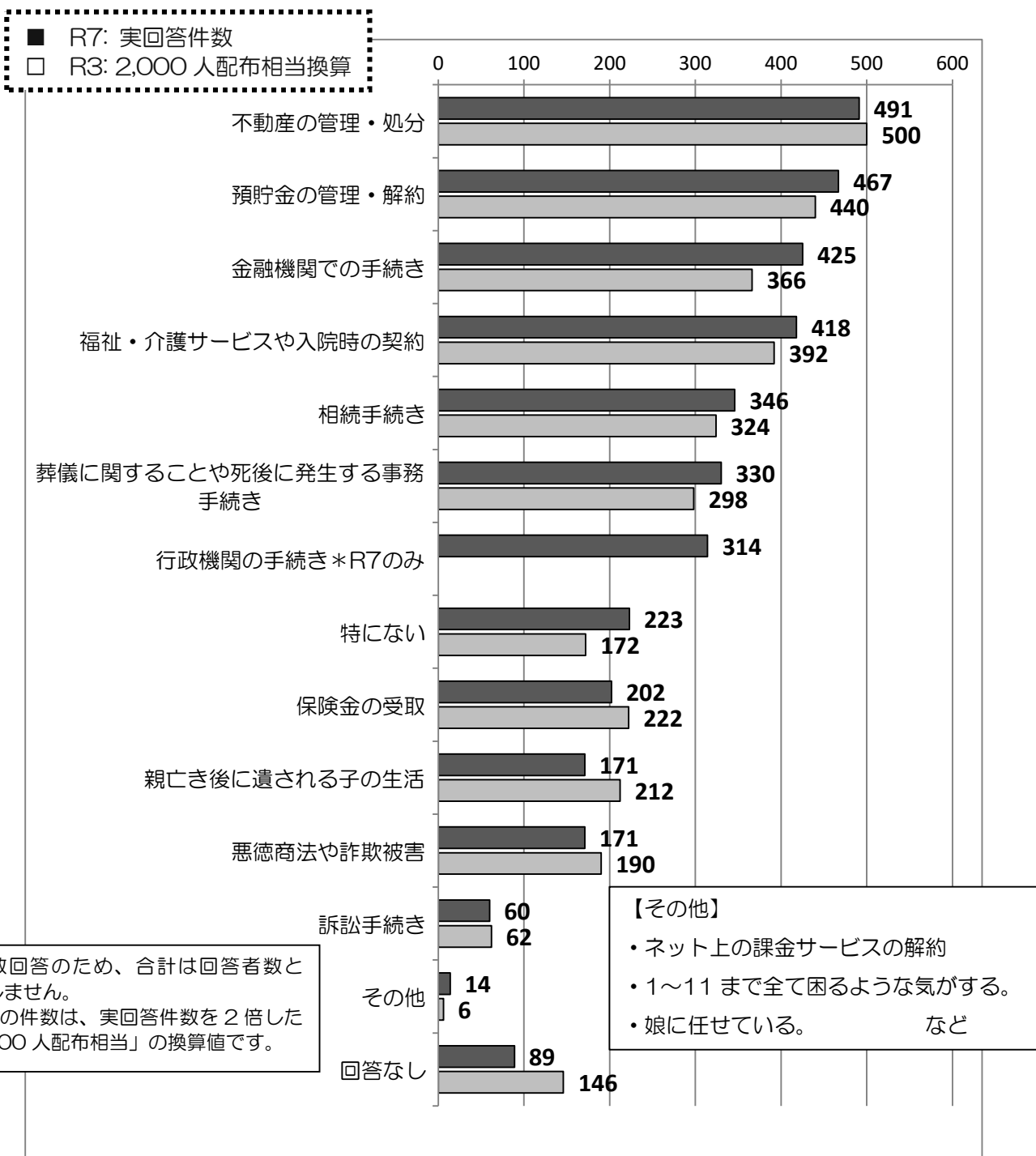
【その他】

- ・公証人・銀行に相談
- ・ネットでどこに相談すべきか調べます
- ・医師・家族・取引先 など

【前回調査との比較】

- ・まず市役所に相談する意識が強いことがうかがえます。
- ・「どこに相談していいかわからない」が 233 件とかなり多い現状であり、相談窓口の周知をさらに進める必要があります。

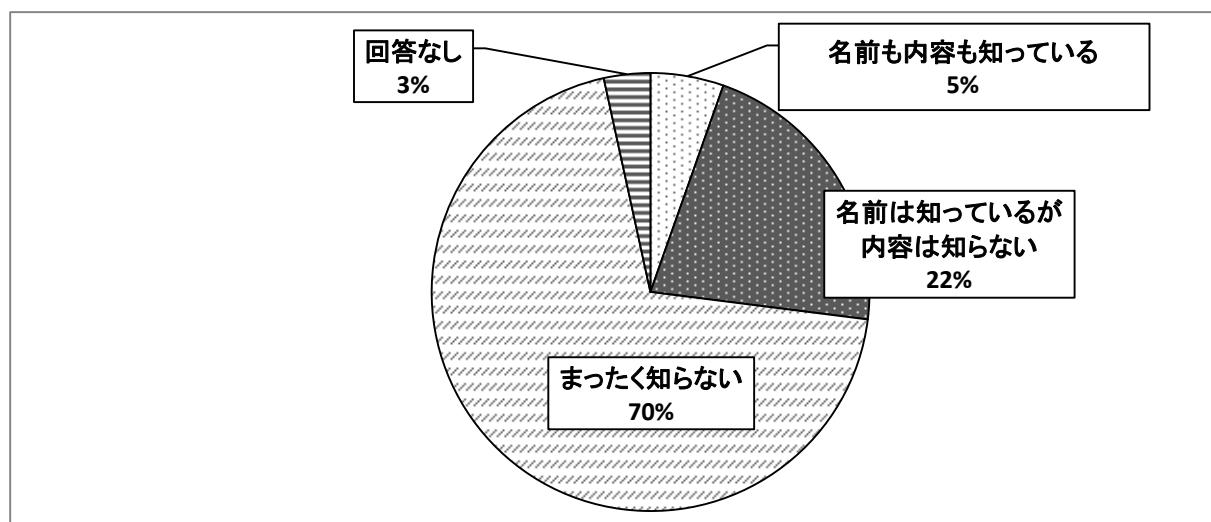
問 34 あなた自身や身近な方について、判断能力が十分な状態になったとき困るであろうこと、また実際に困ったことが以下の中にありますか。
(あてはまるものすべてに○)



【前回調査との比較】

- ・ 「預貯金の管理・解約」「金融機関での手続き」「福祉・介護サービスや入院時の契約」など、多くの項目で前回より増加しています。
- ・ 将来の財産管理や契約、手続きに対する不安が高まっていることがうかがえます。

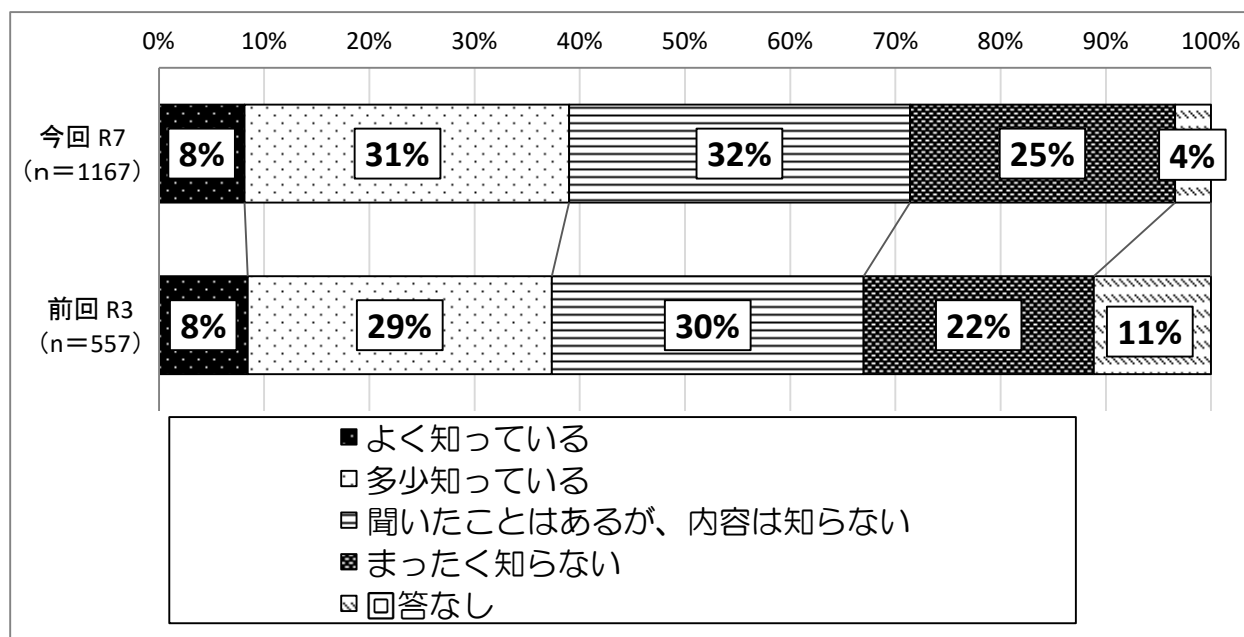
問 35 あなたは、市民後見人についてご存じですか。【新】



【調査結果について】

- ・市民後見人について、ほぼ未浸透であり、普及啓発が大きな課題となっています。

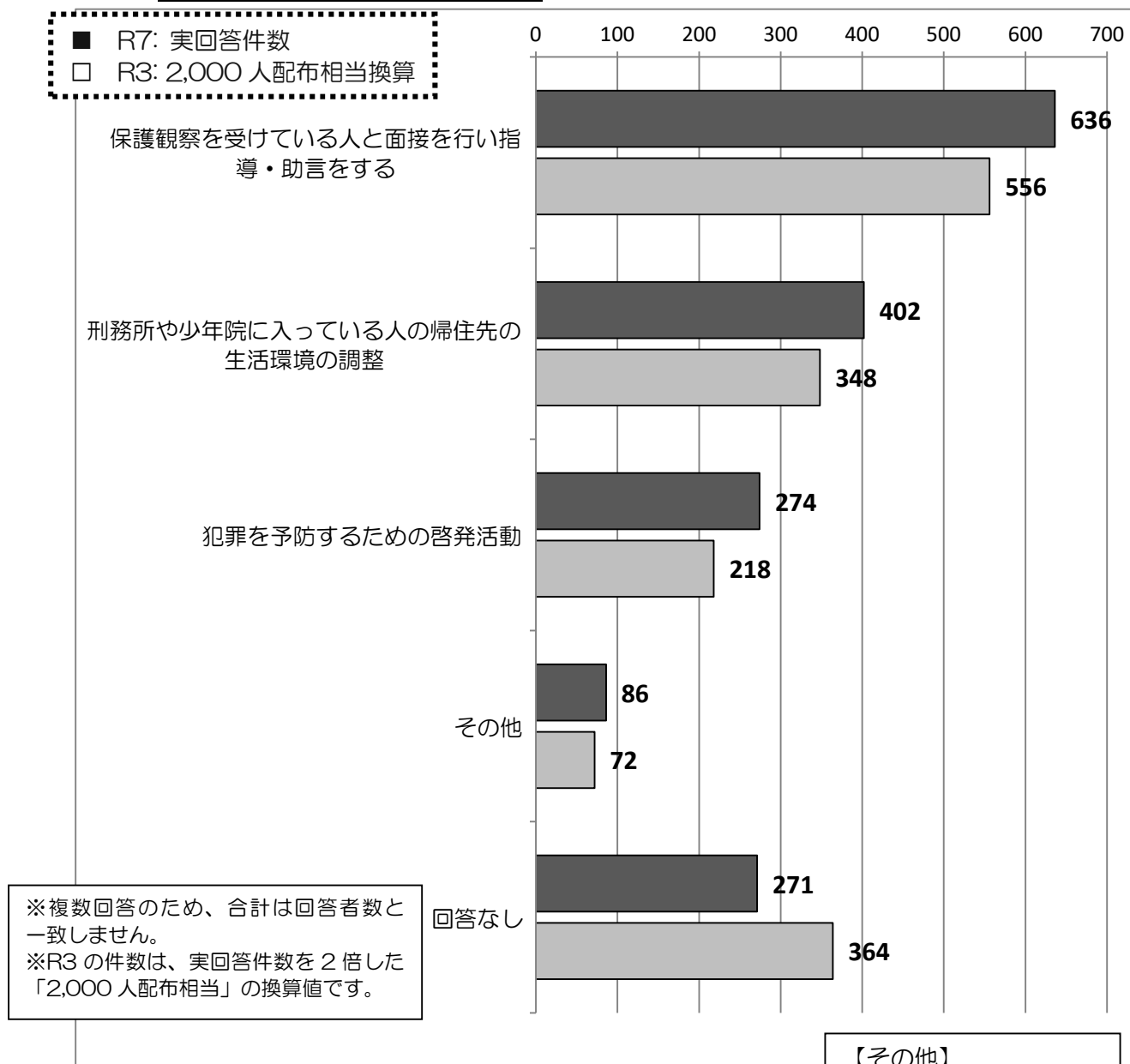
問 36 罪を犯した人などの再犯防止及び社会復帰支援や、これらの取組について地域への理解と協力を得るための活動（更生保護）を地域で支える団体『保護司会（更生保護団体）』がある事を知っていますか。（○は1つ）



【前回調査との比較】

保護司会・更生保護団体について、「よく知っている」「多少知っている」を合わせた割合は39%で、前回の37%からやや増加しています。一方で、「聞いたことがあるが、内容は知らない」が32%、「全く知らない」が25%となっており、活動内容の理解には課題があります。今後は、更生保護の役割や再犯防止、社会復帰支援の意義を分かりやすく周知し、地域の理解と協力を広げることが必要です。

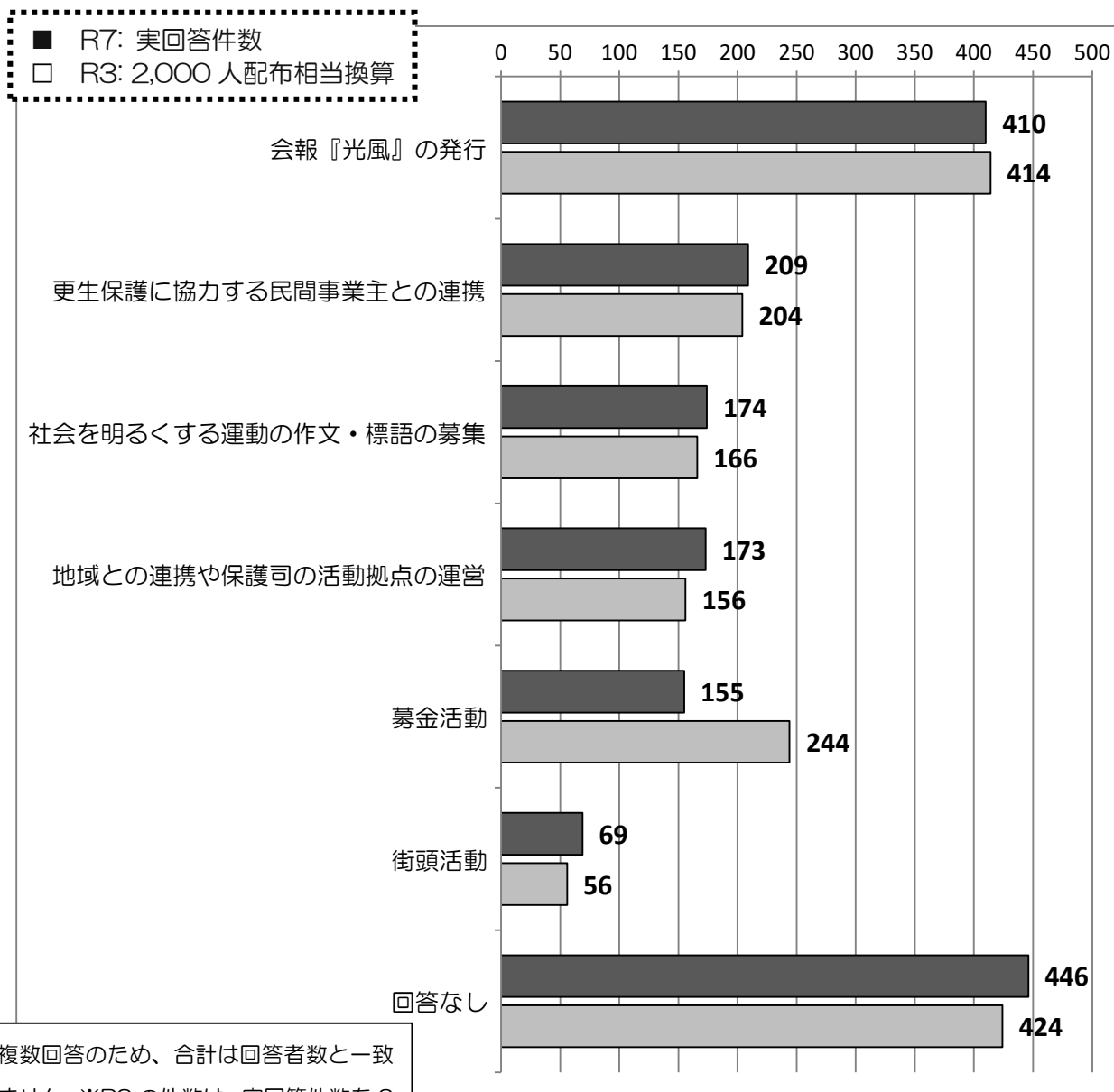
問 37 『保護司会（更生保護団体）』の役割について知っていますか
（知っているものすべてに○）



【前回調査との比較】

- ・「保護観察を受けている人への指導・助言」「帰住先の生活環境の調整」「啓発活動」のいずれも前回より認知度が増加しています。
- ・保護司会の役割については、前回より理解が進んでいるものとうかがえます。

問 38 『保護司会（更生保護団体）』の普及活動について、知っているものを選んでください。（あてはまるものすべてに○）



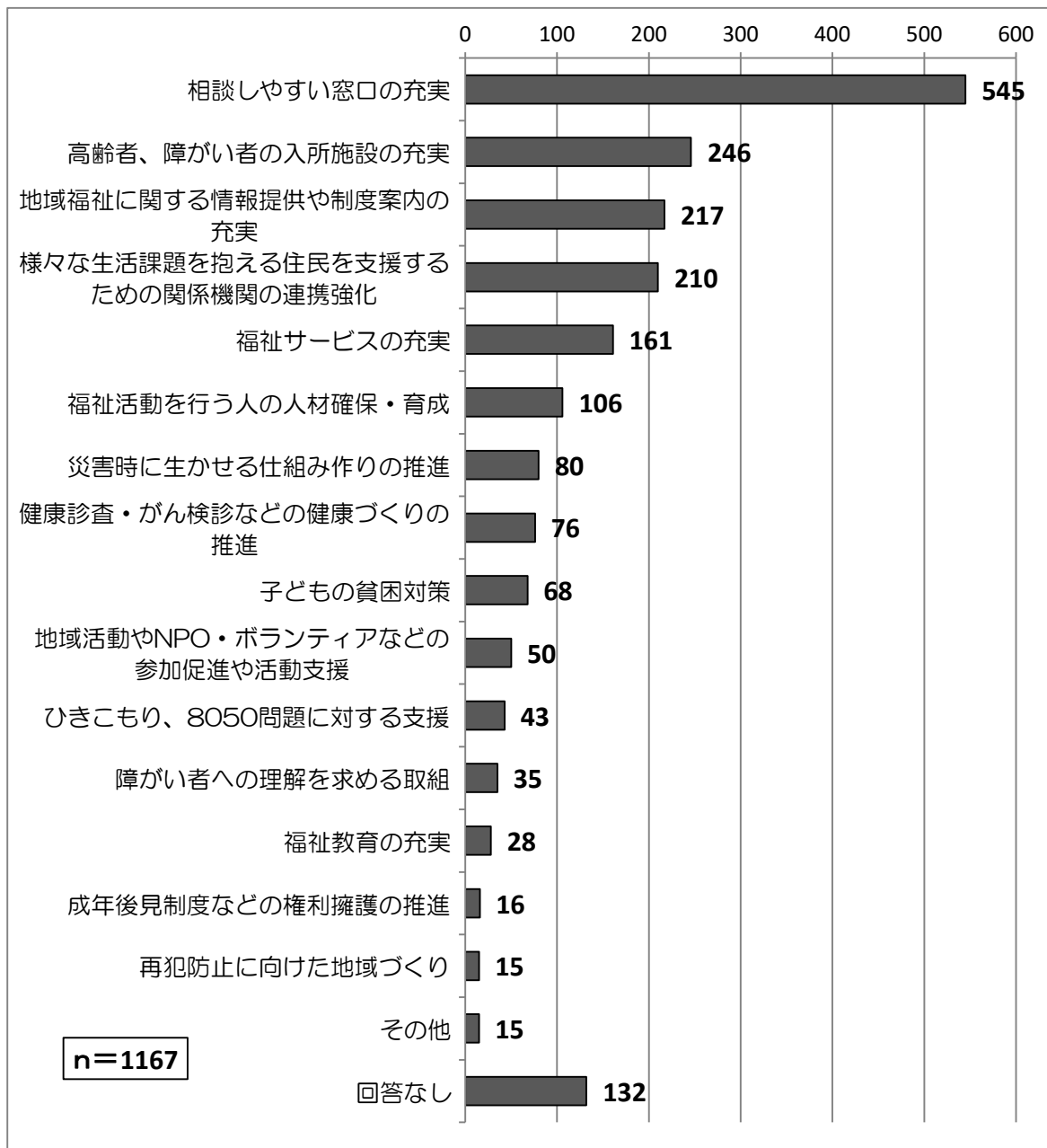
※複数回答のため、合計は回答者数と一致しません。※R3 の件数は、実回答件数を 2 倍した「2,000 人配布相当」の換算値です。

【前回調査との比較】

- ・「会報『光風』の発行」は概ね横ばいであったが、「募金活動」は前回より減少しています。
- ・普及活動の認知は一部にとどまっており、継続した周知が必要です。

問 39 今後、以下のどの地域福祉関連施策を優先して充実すべきだと思いますか。

(○は2つまで)【新】



【その他】

- ・全部大事なことです。
- ・相談の窓口が充実していれば何事もよい方向へ進む。 など

問 40 だれもが安心して暮らすことができる地域福祉の推進についてご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

地域福祉の推進に関して、多様なご意見やご要望をいただきました。

全 203 件の自由記述回答の中から、特徴的な意見や代表的な意見を一部抜粋し、原文そのまま掲載しています。今後の取り組みを検討する際の参考としてご覧ください。

- ◆地域の変化が進む中、行政は昨日から明日を見て制度設計を行う事が多いですが、なかなか変化に追いついていけない様に思います。テーマを絞り、フューチャーデザインの発想での制度設計があっても良いと思います。
- ◆スポーツにきょうみがあるしゅうろう B の人とバドミントン、サッカーなどをやれたり、そういった全国大会にでたいし、その人たちと友達になったりチームを作りたい。
- ◆トレカで(ポケモン、ゆうぎおう、デュエルマスターズなど)バトルし合える会や交流の場があってほしい。
- ◆若者も楽しめるのど自慢対けつやうたのイベントがあってほしい。
- ◆村上市展のキャラクター作品の展覧を全ねんれいたいしょうにしてほしい。
- ◆自分の村の豚小屋の臭いがひどくて外も出歩けない。ストレスがたまって安心して暮らせないので、行政はきっちり指導してほしい。
- ◆少子高齢化が深刻だと思う。若者の結婚や子作りが大切。学校でも福祉についての学びが必要だと思う。防災関連の知識も学ぶ場があるとよい。
- ◆社会福祉協議会とはどういう組織でどんな活動しているのか存じ上げません。生活していて困ったことがあればここへ相談できるというような窓口がもう少し身近に感じられる様になるといいです。
- ◆近所の一人暮らし(子供がいない)老人が亡くなり、家もそのまま施設でなくなりました。その後誰もそのうちの片付けなどせずそのままです。これからどうなるのかな?弟がいるみたいだけど交流もなくそのままです(生前交流なし)。これからの課題として多かれあると思います。
- ◆アンケート内容がいかされるようお願いします。
- ◆困った時に気軽に相談できる人、又は窓口があれば良い。ほとんどの人が困ってもどこに相談すれば良いのかわからず、対症療法的に動いて、的をえてない無駄な時間と労力を使っている場面を度々見聞する。
- ◆介護施設の料金がなくて入れない、一人暮らしの人がいる。
- ◆歩行がよくないので、安い料金で買物代行してくれる人又は組織が欲しい。
- ◆今、ご近所でも親と住まない人達が多くいて空き家が目に付きます。私達もいずれ二人になり(今現在)その先は空き家になるようです。組で 14 軒あったものが今 10 軒。夫婦と一人住まいが 7 軒、残り 3 軒。空き家が 4 軒。目に見えて少ない。どこでも村上市以外で所帯を持ってようだ。これでは人口も減るし付き合い(親戚)も無くなる。という事は近所付き合いも無くなる(全く)。困ります。若い人も住める村上市になって欲しい!

- ◆以前より地域、近所とのつながりがうすくなっているように感じられる。一人暮らしの高齢者も増えてくると思われ、地域と連れいしながら公的な福祉が充実していけばいいと思う。
- ◆誰もが興味、関心を持てるような情報の配信が必要だが、実際は難しいかもしれない。
- ◆年金生活なので公費等は上げてほしくない。
- ◆少子化が進むなか、市内でお産ができる施設もなくなっていました。妊娠中～産後まで子育て支援の充実が必要不可欠と思います。
- ◆もっと早くアンケートをとってくださればよかった！！
- ◆そんなことは出来ないと思う。我々個人がカゲとなって行うほかない。
- ◆相談しやすい人、隣人、近所、窓口があれば、不安にならず安心して暮らすことができると思います。
- ◆昔は人情もあり人との交流があたたかくすべての人が助け合って生きてきた。現在では全く逆のように感じてならない。残念だ！！
- ◆福祉の問題 Q&A があればいいのでは。※特に相談する側の準備して行くものと相談先の連絡箇所を明確化が必要では？
- ◆＜くま＞の出現により安心して外出することが少なくなりました。ほとんどの時間は自宅で過ごしています。全国的にも人の害も多く何とかしてほしい。福祉に関しても高齢化社会になり年金生活だけの方これからも増えていくでしょう。どの様な福祉的援助等があるかなど、誰にどう相談すれば良いか分からないという方も多いと思われます。「地域福祉とはなんだ」と思う人もいます。このアンケートでもっと開かれた地域福祉をお願いします。1人1人よりそう事は難しい事ですが、手を差し伸べたり交流場を計画したり、窓口に来た人だけでなくもっと知り得てほしいです。
- ◆村上市で子供の救急対応をしてもらえる設備のある病院が必要だと思います。
- ◆土・日・祝日に相談出来る所がほしい。
- ◆私が1番困っている事、ゴミ出し、朝早くくるので午前中はゴミ出し出来ないが、熊のため前日に出せない。冬はヘルパーさんに頼んでいるが、出してくれる人、くれない人のバラつきがある。今は他町村のゴミ袋で子供に出してもらっている。
- ◆村上市地域福祉計画策定のためのアンケートはとても重要な調査と考えます。このアンケートの内容を見てこれからの自分にとっても重要な内容と他人事ではないと感じました。また考えさせられました。自分はどうなんだろう？と…。
- ◆私は交通事故にあったときに、そこにいた方たちに親切にさせていただいて、心も体も救われました。私もみんなに親切にと心がけています。私ができることはしようと思っています。
- ◆近所に経済的に困っていると思われる人（家族）がいます。前に自治体のお金をごまかしている人（盗んだ人）です。私はそういう人と関わりたくないと思ってしまいます。前は仲良くしていたのですが、今は避けてしまいます。難しいですね。私はなるべく人の迷惑にならないようにしますが、困ったときは市役所の人に頼っていいのでしょうか？
- ◆現在、認知症とアルコール依存症の父と生活しており非常に大変な思いをしています。どうか対応していただけないでしょうか？

- ◆家族で市外から村上市に越してきました。知り合いがおらず、人と出会う機会がない為、頼れる人が身近にいません。気軽に相談できる窓口や人と出会えるイベントがあると、地域の人と助け合うきっかけになりそうだと思います。また子育て世代としても、相談窓口が充実してほしいです。共働きなので平日に役所や支援センターに行くことができず、1人で抱え込むことが多いです。休日に子育てイベントや相談窓口、子育て世代の出会う機会があると、ぜひ参加したいです。
- ◆地域が孤立しないように道路の整備をしてほしい。
- ◆行政で解決できないことをアンケートで改善できるのでしょうか？
- ◆何より障がい者に対する理解を広めていただける事を求めますし、困った時にいつでも相談できる窓口、それを受け止めて相談に乗ってくださる人達の育成もお願いしたいです。せっかくいい福祉施設に入っても、障害を理解できていない方がいたり、接し方が不十分では意味がありません。障害に対しても高齢者介護にしてもまずはしっかり理解し接し方がわからないと、お互いに困ってしまうことになります。お世話する側がしっかりしていれば、お世話する側もされる側も心地よくすごせると思います。うまく書けなくてすみません。
- ◆空き家が増えて草が出てきて誰が手入れするのか？どこに連絡すればいいのか？それで連絡ができたとしてサービスなのか？支払いをどうすればいいのか？
- ◆免許証返納による買物難民、医療難民 etc 回避。
- ◆“家”や“地域”の関係が希薄になっている現代では、行政や福祉機会の介入が必要である。家や地域に行ってきたことを制度化して取り組めると良い。支える側の人間が疲弊して結果崩壊しているケースもよく見る。支える側の人間が自分の人生を歩めるようになれば、負担軽減できたらと思う。
- ◆地域に寄り添った内容で考えてほしい！
- ◆障がい者を知らずに又、知識不足で障がい者が困っています。何とかありませんか（家族近所づきあい）。健常者と同じとみています。
- ◆身近に一人暮らしの方が孤独死したという事があり、隣近所の人達も困惑しました。声かけとか何かできなかったのだろうかとしばらくうわさ話に上がりました。自分には関係ない事とは誰も言えないと思います。赤の他人に介入されるのを嫌がる人もいると思いますが、ほどよい距離で人と接することができる場所、機会があればいいと思います。
- ◆子育て中のお母さんは、子供達や家族のことが一番で、自分のことは後回しになっているため、少しぐらいの体調不良でも我慢して検査を受けず、悪くしたら手遅れになることがあります。30代～50代のお母さん達の検診などが受けやすくなれば、これからの世代を守るためにも市で考えていただきたいと思います。今年の物価高でお金を使えないお母さんも多いと思います。村上市に住んで良かったと思える働きがあればもっと良い市町村になるのではないのでしょうか？そのために市長の決断が必要だと思います。
- ◆日本は福祉が充実しているのであまり心配していませんが、大事にしすぎる所が気になります。これから外国人が多くなる事の方が不安です。
- ◆地域福祉の理念を忘れず、権力に捉われない活動をして欲しい。

- ◆介護について知りたいです。具体的には施設の利用についてです。ショートステイが利用したい時に利用できません。ケアマネはいますが希望通りに予定を入れてくれずに家族が困っています。フルタイムで働きながら在宅介護になっておりとても大変です。ケアマネさんをもっときちんと仕事をしてくれる人に変えてもらいたいです。このままでは介護離職になりかねないです。もう少し融通がきいて仕事をしやすくできないものかと思っています。民生委員の方もあまり頼りにはなりません。
- ◆地域福祉の推進をする為の活動資金を支える募金は年々減少している。（町内では）世代が若くなるほど感心がなく、お互い様の気持ちは少ないと思われる。SNSでの募金をもっと呼びかけ新しい方法を考えてはどうか？
 - ・子ども家庭庁を廃止して、その予算を福祉にあてればもっと充実できるでしょう。
 - ・地域住民の声を丁寧に聞き取って欲しい。
 - ・様々な給付金等があると思うが、全て申請しないと受け取れず、どんな給付金があって、どんな状況の方が対象なのか広く教えて欲しい。知らなかったばかりにもらえるものがもらえず、日々の生活が苦しい思いをする事になっていると思う。そう言った部分の改善も福祉につながるのでは？高い市民税をとってるのだから還元してほしい。
- ◆今回の対象者が94歳でほとんどの内容に答えることができない。対象者の確認はしていますか。
- ◆観光や文化、スポーツなどいろいろありますが、スケボーパークや鮭などアピールする予算より、福祉に予算を取り、高齢者の移動手段（バス）など運行してほしいです。
- ◆個人情報の保護を重視してほしい。
- ◆いずれ自分も施設に入所するだろう。その施設でどんな生活をしていくのか不安がある。お世話してくれる方に迷惑かけないおとなしい年寄りでいなければならないと思う。
- ◆集落の世帯が減って行く事が不安になっている。助け合う人がいなくなる中で福祉ってどうあるべきかわからない。
- ◆福祉の事で市役所に相談をしに行ったが、3ヶ所の課に聞きに回ったが1ヶ所で説明できる所があったら良い。
- ◆自己を含む住民の緊急時の速報・即応体制の構築。
- ◆私は新潟市から村上に転居してきましたが、村上の方々は地域のつながりみたいものが非常に強いと感じています。もちろん地域福祉の推進ということで、地域で助け合うことも大切だと思いますが…私にはそれがストレスに感じており、生活のしずらさを抱いています。自由やプライバシーが守られていないように思います。そういった人がいることを知っていただき、住民が無理なく関われる形ですすめられることがいいと思います。
- ◆近頃、熊の目撃情報・被害が多く聴く。対策はどうか。小学校の登校・下校時見守り隊を常駐するのも個人的にはいいと思う。何でもそうだが、事が起こってからではおそいので、何かしら対策してほしい。
- ◆向う三軒両隣が仲良くする事が一番だと思いますが、次第に空家になって行く気がします。コンパクトシティも頭に置いた方が良いのかな。

- ◆子育てに関してもっと支援してほしい！
- ◆いつまでも元気でいられるように自分なりに行動したりして、人の輪に入り、いろんな事に目を向けて生きていければと思います。遅くなりました。すみませんでした。
- ◆日々、人々の為にご尽力を費やしてくださっている皆様に敬意を表します。
- ◆1人で生活していた親が、病気になり1人で同じ家で生活できなくなり、施設に入居希望したのですが、年金で入れる所がなく、特別養護老人ホームの入居は介護3にならないと無理で、家庭の事情を考えてもらって介護2であっても特養に入居できるよう考えてほしいです。
- ◆介護施設の充実を図り、勤労者世代が安心して生活出来ること、要介護者が出た場合でも心配なく今までと同じ生活が出来る事が望ましいです。
- ◆福祉に関する情報発信が足りないように感じる。必要な人に必要な情報が行き渡ってほしい。
- ◆相談体制とつながりづくり（生活困窮、DV、虐待、引きこもりなど）。
- ◆社協やNPO、医療・福祉・教育機関が連携した支援ネットワーク。
- ◆コミュニティカフェや地域交流館などの「居場所づくり」。
- ◆誰が見ても分かるような情報発信の工夫（SNSが使えないような高齢者は特に）。独居だからと世の中から孤立してしまわないような支援。
- ◆地域住民である前に私は村上市民として物事を対応したい。
- ◆たとえ不自由な身になっても住み慣れた我が家で暮らしていきたい。
- ◆毎日毎日子供の事が心配です。もし1人で暮らしていけるだろうかとか、何をしたらいいのかと思っています。本人もきっと何かを思っていると思います。相談に伺った時は先々の事は心配ないようなお言葉を聞けたらいいかなと思っています。よろしくお願いします。
- ◆今は元気ですが、もうすぐ80代に入ります。体の事が一番心配です。これからは必ず病院通いが多くなると思います。まず車に乗れなくなった老人の病院通いが一番問題だと思います。老人世帯が多くなるので、病院の通院をどうするか、一番問題だと思います。家から病院へ行くのが一人でも行けるようになればいいなと思う。
- ◆高齢者の経済的負担の少ない施設の充実。
- ◆健常者にも、無職であり親も亡くなり話し合う者のいないひきこもり者には私は声掛けをし何か手伝うことがあるかどうか悩みを聞いてやる事が一番だと思います。身近な近所の方が行政の方より話しやすいし、事情もよく知っているので、親身に相談に乗ることが一番だと思います。そこから行政へと相談乗ってもらうことだと思います。
- ◆現在、私自身は体も動くので何の不便も感じていませんが、ご近所も空き家が増え、今後、自分が年老いた時に他人を当てにする事は難しいと思います。AIやロボットに頼るしかないかな。支援をしたくてもされたくても人口が減り続け人間の力だけではなかなか難しいと思います。
- ◆質問の意味が分かりづらく回答困難でした。
- ◆子供が遊べる公園や施設を作ってほしい！
- ◆社会福祉協議会等の活動内容を全く知らないのでもう少し知る機会を増やしてほしい

- ◆家の周りで作業したいけど熊が出るため外の仕事ができない。作物もサルにやられて何も作れない。
- ◆若者と同居していれば思っている事、地域への貢献度も違ってくると思いますが、老夫婦のみの世帯ですので、やれる事は限りあります。また、周りは空き家が増え、一人暮らしも増えました。安心して暮らすには福祉以前に若者が地域に残れるような企業の誘致、就職先がなければいつまでもこの問題は解決しないように思われます。
- ◆認知症で一人暮らしの方もいます。軽度ですがサービスを受けている（訪問サービス）らしいので、日常生活には支障はないと思いますし、たまに子供さんも来ますので細かい事で声掛けをしたいと思いつつも立ち入れません。子供さんの顔合わせても何も親の事はおっしゃらないので、私たちも見ても見ぬふりをすることがあります。（回覧板、夜通し干してある洗濯物など）
- ◆私は1か月の半月は姉の家に行っていますが、村上市に生まれて幸せだと思っています。
- ◆朝日はウォーキングは水の高さ低くせめて腰高位までであると良い。それと水温が低すぎる。子供達も泳げる楽しみを味わってほしい。泳ぐところは水の深さがありすぎ。
- ◆財政が厳しい中で故郷納税金でスケートパークを作り、どれだけ集客があり、施設の収支はどうか。大赤字と聞いています。市の職員数が多い中で、何をやろうとしているのか分かりません。市長とのタウンミーティングもないです。旧村病跡地もどのように活用するのか分かりません。財政厳しい市職員の中でも良く考えてください。お金がなければ福祉サービスも出来ません。
- ◆介護医療院（医師が常駐）の増設をしてほしい。
- ◆現在、小学校・中学校・高校での地域福祉に関する教育はどの程度なのか... よくわかりませんが今後の様々な課題を解決すると同時に、今小さい子、子どもたちへの教育、そして更に若者への教育が必要だと思っています。しかし学校でそれらを行う時間的余裕はありません。そこで行政等が必須（強制）として講座等で教えていく方法が...。市役所が地域の子どもたち・若者（若い親も含め）への教育をもっとしていかなければいけない時代にならないと... などと考えています。
- ◆住み慣れたところで安心安全に生活が送れることが出来るようにする、地域・福祉・行政が取り組む、一人暮らしの高齢者に対してどのようにしていくか大切なことではないか？もっと優しい町づくりが大切であると思う。
- ◆福祉サービスをもっと充実させて。障害者など困っている家庭があります。
- ◆総合窓口が必要だと思います。今は独身の男女が多くいます。だから親が死亡したあと、どうすればいいか分からない人が多数いると思います。こまかい所まで説明したり、聞いたりして、ていねいにすることが大事だと思います。世の中には分からないからいろいろな事件が起きているので、その前に注意が必要だと思います。よろしく願いいたします。
- ◆各町内には民生委員の方が3名くらい必要だと思います。お互い助け合い相手の身になって、やさしさ・思いやりのある明るい、住み良い村上市に期待します。

- ◆子供達の6年生の学校別競技会がなくなったのに連れてアファスに来る子供達がぐんと減ったこと。ちゃんと指導員がいて水泳の楽しさも味わって欲しい。
- ◆こういう封書は障害者の方には郵送しないでもらいたい。
- ◆高齢(85才以上)夫婦二人暮らしです。この2,3年近況の見回りが来ません。生き辛さを感じています。
- ◆老人と子供が不自由なく暮らせる村上。叶えてください。
- ◆身の回りの事も満足にできなくなっており、何もできませんので「する意志がない」を選択しました。
- ◆実態に関する知識がないため答えることのできない設問が複数ありました。ご容赦下さい。
- ◆このアンケートを頂き自分が地域福祉についてほとんど何も知らないことを知りました。と同時に今このアンケート?とも思いました。意見というより希望です。支援と言うと敷居が高く、相談しづらい方も多いでしょう。特にひきこもりの子供又は学校仕事で精神疾患を患った方がいる家庭は周囲の目を気にして相談しづらいのでは...。時代の変化で色々な家庭があります。村上市と“市”はついてますが、まだまだ考え方は土着的だと思います。もっと色々な方に寛容な地域になればと思います。これからは若い世代を守り育てるような、そして誰でもが普通に支援・援助を受けられる地域を望みます。
- ◆高齢の1人暮らしや高齢者の2人暮らしが増えています。そしてこれからも増えていくかと思っています。安心して住み慣れたこの村上地域で生活できるよう行政と地域の皆さんが協力し住みやすい村上市にしてほしいです。
- ◆地域福祉に関する情報を得る手段をよく理解していません。まずは情報収集の手法を教えてください。
- ◆地域の方々の成功談や失敗談、こんな風に考えています...色々な話が聞けるような何かがあれば助けになる人は多いと思う。お年寄りの昔話を定期的に幼稚園や学校で行ったりすればお互いの為になると思う。話したい人は結構いると思う。
- ◆住みやすい環境整備。
- ◆住民同士の助け合い。
- ◆若い世代に関心を持ってもらうこと→又、村上市から転出してもまた戻ってきたいと思う市になることから始まる。
- ◆1人ひとりの困りごとを早期に見つけ、専門機関につなぐ為の地域作りをする。特に老人の一人暮らしには、民生委員の見守りなどの強化をしていただきたいと思います。
- ◆地域福祉推進のために行っている活動などがありましたら広報誌で活動を載せる。
- ◆市役所本庁に社会福祉協議会が入っていた時は流れも良くスムーズだった。今は大変不便な思いをしている。今いちど、福祉拠点となる場所をまとめてほしいと思う。
- ◆アパートでの生活です。高齢なので1人暮らしの不安があります。
- ◆当事者でないとイメージしづらい部分がありますが、とても大切なことと思います。今後とも宜しくお願いします。
- ◆コミュニティバス「あべっ車」と村上駅発の電車の接続時間をもう少し長くしてほしい(5分では間に合わない。バスが遅れると電車に乗れない。)

- ◆市の福祉課の方々は地域のさまざまな人たちと直接話をしたり会ったりする機会はあるのでしょうか？このようなアンケートや訴えてくる方々からの話しではなく直接地域を歩き人々の生活を感じ必要なことや望んでいることを知ることを能動的にしているんだなど見れば安心して暮らすことができると思う。
- ◆一人暮らしの世帯が多くなった今の時代、様々なケースの老人世帯があると思います。世の中はどんどん変化しデジタルの必要性も多くなっています。これから誰かに聞くことも必要になります。そんな時やはり近くにいる方々、ご近所の親切が身にしみます。若い世代の方々には福祉に関する教育等を学んでほしいです。
- ◆居宅介護を受けている者で私の答えにはなりません…やはり隣近所との話し合いはしたいと思いますが、隣も空き家ばかりになって来て人も年寄りばかりで会うこともできません（家にこもり）。人一人と会うことも見ることも出来ません。村は人は半分年寄りばかり、家も人も半分になりました。
- ◆市の放送が「コダマ」すぎて内容が把握できない。ゆっくり言ってほしい。1回ではなく2回程！！そうでなければ携帯に！！
- ◆車の免許を返納した方でも通院や買い物などができるように、乗り合いタクシーやバスの運行を充実してもらいたい。
- ◆地域福祉の充実には行政のテコ入れが不可欠だと思います。
- ◆サービスの充実を図るには事業者の参入してもらわないといけないが今の村上市に投資する企業はない。
- ◆地域福祉に公金を使う前にそもそも人口減少の対策や企業誘致の政策を行う方が先かと。人も金も集まらないところでボランティアや地域協力を呼びかけても効果があるとは思えません。
- ◆福祉課としてできることとしてはせめて福祉活動に協力してくれる人や団体等には報酬を渡せるようにしないとイケないと思います。
- ◆活動を行うと得があると思わない限り当事者以外の理解や協力は得られないのかなと。
- ◆日々大変な業務をしているとは思いますがもう少し行政には革新的な考えを持っていただきたいと望んでしまいます。
- ◆福祉についても福祉課の職員は十分頑張ってくださっていますが村上市はそもそも高齢者、障がいなどに窓口が分かれていない時点で力を入れる気がないように外からは見えてしまいます。
- ◆働き方改革と言うが「働きたい人」はもっと自由に時間を増やしたり自由な働き方をしてほしい！！（場所が変われば…もっと働けるという雑誌も出ているのは…おかしい）
事業主は人手不足だと言ってるし…政府は働き方改革と言ってるし！！これは本当におかしい！！一度皆の「タガ」が外れると「不登校」と同じになる。時間の余っている老人・経験の多い老人がもっと役に立つような行政をしてほしい。
- ◆ひきこもりの方や障害のある方など少しでも社会生活が経験できるような場所などあれば良いと思います。又この方達をサポートしていける専門の方や経験豊かな高齢者などとの関係なども良いのではと思います。

- ◆子供達の6年生の学校別競技会がなくなったのに連れてアファスに来る子供達がぐんと減ったこと。ちゃんと指導員がいて水泳の楽しさも味わって欲しい。
- ◆こういう封書は障害者の方には郵送しないでもらいたい。
- ◆高齢(85才以上)夫婦二人暮らしです。この2,3年近況の見回りが来ません。生き辛さを感じています。
- ◆老人と子供が不自由なく暮らせる村上。叶えてください。
- ◆身の回りの事も満足にできなくなっており、何もできませんので「する意志がない」を選択しました。
- ◆実態に関する知識がないため答えることのできない設問が複数ありました。ご容赦下さい。
- ◆このアンケートを頂き自分が地域福祉についてほとんど何も知らないことを知りました。と同時に今このアンケート?とも思いました。意見というより希望です。支援と言うと敷居が高く、相談しづらい方も多いでしょう。特にひきこもりの子供又は学校仕事で精神疾患を患った方がいる家庭は周囲の目を気にして相談しづらいのでは...。時代の変化で色々な家庭があります。村上市と“市”はついてますが、まだまだ考え方は土着的だと思います。もっと色々な方に寛容な地域になればと思います。これからは若い世代を守り育てるような、そして誰でもが普通に支援・援助を受けられる地域を望みます。
- ◆高齢の1人暮らしや高齢者の2人暮らしが増えています。そしてこれからも増えていくかと思っています。安心して住み慣れたこの村上地域で生活できるよう行政と地域の皆さんが協力し住みやすい村上市にしてほしいです。
- ◆地域福祉に関する情報を得る手段をよく理解していません。まずは情報収集の手法を教えてください。
- ◆地域の方々の成功談や失敗談、こんな風に考えています...色々な話が聞けるような何かがあれば助けになる人は多いと思う。お年寄りの昔話を定期的に幼稚園や学校で行ったりすればお互いの為になると思う。話したい人は結構いると思う。
- ◆住みやすい環境整備。
- ◆住民同士の助け合い。
- ◆若い世代に関心を持ってもらうこと→又、村上市から転出してもまた戻ってきたいと思う市になることから始まる。
- ◆1人ひとりの困りごとを早期に見つけ、専門機関につなぐ為の地域作りをする。特に老人の一人暮らしには、民生委員の見守りなどの強化をしていただきたいと思います。
- ◆地域福祉推進のために行っている活動などがありましたら広報誌で活動を載せる。
- ◆市役所本庁に社会福祉協議会が入っていた時は流れも良くスムーズだった。今は大変不便な思いをしている。今いちど、福祉拠点となる場所をまとめてほしいと思う。
- ◆アパートでの生活です。高齢なので1人暮らしの不安があります。
- ◆当事者でないとイメージしづらい部分がありますが、とても大切なことだと思います。今後とも宜しくお願いします。
- ◆コミュニティバス「あべっ車」と村上駅発の電車の接続時間をもう少し長くしてほしい(5分では間に合わない。バスが遅れると電車に乗れない。)

調査結果のまとめ

今回の調査では、住民同士の支え合い・助け合いについて「必要だと思う」と回答した人が8割を占め、地域で支え合うことの重要性は多くの市民に認識されていることが分かりました。一方で、近所づきあいはあいさつや会話程度の関係が中心であり、地域活動や行事への参加についても、積極的な参加意向は前回調査と比べてやや弱まっています。

日常生活における悩みや不安では、老後、健康、経済的な問題、介護に関する項目が多く、特に介護への不安が高まっています。また、災害時の手助けや安否確認、除雪など、日常生活に密着した支援へのニーズも高く、地域における見守りや支え合いの仕組みづくりが重要となっています。

相談先については、家族や友人・知人が中心であり、市役所、社会福祉協議会、民生委員・児童委員などの公的・地域の相談先につながっている人は少ない状況です。今後は、困りごとを抱えた人が早期に相談につながるよう、相談窓口の周知と、気軽に何でも相談できる体制の充実が求められます。

また、民生委員・児童委員や社会福祉協議会の活動内容については、十分に知られていない面があり、地域福祉を支える関係機関の役割を分かりやすく周知していく必要があります。加えて、ひきこもり、ヤングケアラー、成年後見制度、市民後見人、再犯防止など、複雑化・多様化する課題への対応も求められています。

今後の地域福祉の推進にあたっては、住民同士のつながりを大切にしながら、行政、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、自治会、関係機関が連携し、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを進めていくことが重要となります。